

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

11
565

三
相
詞
葉

始



1/-565

題詩



西海煙波鴻爪殘故山風月在毫端三

桐詞葉蔚然茂片影且為家史看

李隱岡村利平拜讀



著者略歷

如松翁。諱祐脩。號知足庵如松。文化十四年七月十八日生于飛驒國吉城郡古川二之町。實野村美敬三男也。長而嗣高山桐山氏。稱源兵衛。後隱居而改源七。明治八年四月罹災失其家。仍移住于古川町。同二十三年三月十四日歿。年七十四。法諡釋理言。

霧山翁。諱祐鄉。如松翁長男也。初號東梧。又鳳陽。次號竹所。弘化元年十月二十日生于大野郡高山二之町。稍長而嗣家。稱源兵衛。明治八年四月罹災失其家。仍出遊于國外。三年而歸於古川二之町之家。先是改號霧山立豹。同三十年一月二十六日歿。年五十四。法諡釋理聞。

中山君。名義彥。立豹翁長男也。明治七年一月二十六日生于高山二之町。同八年四月遷于古川町。同三十年一月嗣家。三十三年三月移居于吉城郡

國府村。初號皆山。後改中山。大正十年五月十二日歿。年四十八。法諡
釋理光。卽基彥之父也。

桐山基彥謹記

如松翁遺稿



ふみ久してふ年の三とせといふ秋の八月の末つ
方都の六條殿の涉成園といふ御園にいる事を賜
はりけりあなかしこ此は我輩のいるへき所には
あらねはまして言の葉草の一ひらも摘みいつへ
きにはあらねご

玉敷の庭もかくやと見るはかり草葉のつゆも光こそそへ

偶 仙 樓 以下七首
涉成園名勝

久堅の神も参來て遊らんくもにかかれる殿の高橋

嗽 枕 居

名にしおへは石の枕のいにしへも思ひやらるゝこの庵かな

傍 花 閣

天彦のすみかなるかも咲満る花の雲井の玉のうてなは

左大臣墓

いにしへの尊き人も御ころをここにこめてしめす此石

印月池

水鳥も鏡こや見むさやかなる月かけなから氷る御池は

五松塙

君にその千代をゆつりし印にやかれて残れる松の五もこ

西湖蘆

移し植し蘆の根のみかもろこしの西の湖邊もかくやこそ思ふ

無三悪趣

うれしさはさそなかきりも難波瀉あしこいふ名も聞ぬ御國は

雲間月

待わひし嶺ははなれて月影のなにいそくらん雲の絶間を

紅葉

世中もかくこそありけれ移り行時雨に染るもみち葉の色

慶應の三ごせこいふこしのむ月のはしめつかた

わか娘不遠寺の内たゝならぬ身こなりにければ

帯の祝に

來る春をみなみの枝のまつしりてふくめる梅の花そうれしき

春色浮水

萌出るきしの小草をひたすにそ雪解の水に春はみえける

夕花

日は入ぬ月はまた出ぬ夕やみにほのく見ゆる花の白雲

花前懷舊

見るここに猶おもかけのます鏡おほろ月夜にちりし其花

年毎にきみかむかしを思ふ哉春咲花をかたみにはして

櫻

家路には歸れど心あこかれてこよひは花に明す夜半かな

禁中霞

八衢にしけ行ききも見えわかすけふ九重に立かすみかな

禁中立春

御門邊に引つらねたる小くるまにはつ日かやく影ののどけさ

湖なる沖島に花の盛を見て

船よせて今宵は島に明さはやあすはちりなん花さ見ゆれば

卯月八日宮村の湯にもものして河津をききて

夜もすから聞は川瀬になく蛙こゑすみ渡る曉月の空

呼子鳥

けふも又聲打しきり呼子鳥山田の案山子なごかこたへぬ

更衣

をしみつるきのふにけふは立かへてひこへにかわる人の心か
こは、やな若葉かくれの鶯のけふ羽衣の色はいかにこ

新竹

若竹の小枝おもげにやどりけり葉ここにすかる露の月影
こごしおひの宿のなよ竹末たわみおもるか夜半の月のおち水

郭公

おそろかす枕の山のほご、きす夢かこおしむ夜半の一聲

螢

吳竹の葉數よむまで照すかなのきはにちかくすたく螢は

寄月戀

出るかご見れば雲間にかつきえて見さりしよりも月の戀しき

初雁

めつらしくけふ初雁の聲聞は待ける人にあふ心ちせり

月

月見れは我世のいたくふけしをもおころかれぬる有明のそら

閨時雨

閨近きその、吳竹時雨きて窓打ならず秋の夜のうさ

十一月の中は都よりはるくこまらふこの下り

給ひけるに日毎に雪ふりてさむさまさりければ

白妙の山を幾へかかさねきて日をふる雪の身にやしむらん

同冬わらひなごつみてまいらすこて

冬も猶かれぬ人目を嬉しさの心はかりにたくわらひかな

八月の中はに慈母のなくなりたまひけるに立待
の夜に野邊の送りし侍りて

我なけく涙に月は宿りても雲かくれにし君は來まさす
述懷

曇るよに木實をあさる山猿もなけきのみこそ數つもるらめ
中くに老木も今は朽はてぬ何をたのみに世をすくしん

年暮

世にかよふ路は跡なき白雪に隠る、身にも春を待哉

聞法

鷺の山流れてたえぬ法の水汲さる人のこゝろにそすむ

清少納言

おすまきて心のいろも見ゆる哉高根の雪の花にまさりて

田家梅

長閑さは牛のねふれる小田の庵の軒端にあまる梅のほひ香

春 月

春さはいへは浪の花さへ月影のおほろけならすにほふ夜は哉

明治三年

天皇 東京にて春をむかえさせたまふことを祝奉

りて

東なる遠の朝廷にめつらしく萬歳うたふけさのはつ春
東なる京大城の空高く不二の根かけて田鶴や舞らむ

春 鳥

春霞棚引いたす深山より鳴てかけらふ春の駒鳥

高祖洞さいふ山は國の中央さかいひ傳て水も南

の方に流てその水上に御はか山さいふ高峰あれ
は

國の祖をいはひ祭れるみはか山しめ引渡す霞たふさや

一 宮

國民はうれしくもあるか水無瀬川水のみなかみすめるかきりは

浦 春

難波かたなにはごもあれみを盡し霞に埋む春ののさけさ

春の夜友たちの訪ひけるに庭の梅咲たりければ

梅か香をいかなる風かつけつらむ春の夜ふかく君か訪しは

庚午二月上京の時美江寺の宿にて鶯の初音を聞

て

朝日影ねくらをてらす吳竹にふしおもしろく鶯のなく

醒井の驛にて

武士の世々のかゝみこいさきよきいさめの清水汲見てそしる

行路梅

駒ごめてしはしなかも梅の花匂ひはかりを我ものにして

草津驛にて月を見て

雨ならて曇れる山にさし登る月も笠着の春の夜半かな

靈壽院殿一こせあまり先つ頃國に下り給ひし時

御前の庭に小松をうへさせ給ひて重てくたり給

はんまてに何ほごか生立ぬへきこのたまひける

か今年又くたり給ふへきに定まりければよみ侍

りける

またみんな植おかしける若松にのりの花さく春にこそあへ

山 櫻

おくれつ、青葉か中に咲花もさくらは春の色香なりけり

靈壽院殿午の八月中頃白川の里に御巡化なさせ

給ふ此さは飛驒國にても名高くけわしき路に

て尋常の人すら行なやむをいかさまにおはしま

すらむごておのれも二日おくれて物し侍るに三

尾河村てふ所にて漸々追つき奉りぬ

牧ヶ洞の原山といふ所にて

雲深き楨の葉山のおくまでもあまねくてらす法の月かけ

小鳥原

飛鳥の小鳥か原の秋の庵里に見なれぬもみちしにけり

輕岡峠

秋ふかく槇木立山もあなかしここゆる御足はかる岡の峰
雨のふるに越し玉へるを見て

うたかひの蓑笠ぬきてむらさきの雲よりそく雨にぬれなむ
松の御坊照蓮寺にまうて、

一本の杉の大樹をもも千々にさきて造りしこれの古寺
福島保木の難所にて

嶮岨さもしら川山をふみ分てあはれみふかし入まししはや
大牧村にて

深山路におしき紅葉のにしきかな誰に見よさて染つくしけむ
九月十三日靈壽院殿の草狩にて山田村に物せ

させ給ひければおのれも夕方御迎にいて侍り長
峰てふ松原にて

君こそはあかすめつらめ長峰のまつのあらしにすめる月影

閏十月六日靈壽院殿彌御發途あそはしければ

あすしらぬ習ひある世に老か身はけふのわかれそいご、悲しき
いご、しく惠の露に袖ぬれてあふけはをしき別路の空

述 懐

鏡にもはつかしきまで髮髯のしろきはゆきこつもる年哉

庚午十二月十六日は正當然共法會は九月二十五

日相營

桐香院郭公力所大居士十三回忌の手向に

年月は立かへれこも烏羽玉の夢より外にあはぬ君かな
書残すふての跡こそ年経ても匂ふ言葉の花の梅か香

去年の春は御坊の御あるしの上人此所にましま

して何さなく花の匂ひふかく咲満ていさ賑やか
になかめしをこの春は御あるし都にのほりまし
ければこゝろなき花もいささひしく見えはへれ
は

めぐり来る年にかはらぬ法の庭花の匂ひのうすき春かな
名所花

ひるもよしよるも芳野の花盛雲と風さは心あらなむ

明治四辛未年八月二十日餘りの日小坂の温泉に

湯あみして歸るさ落合といふ里にて

深山木のもみちも今は流れ出ておち合里の錦成けり

赤沼田といふ所にて

秋の日もあかぬ田ここの水のうへに唐くれなひの紅葉散つゝ

長瀬里にて

いふせくも待間長瀬の里人も刈穂うれしくみゆる秋哉

淨福寺に一夜泊りて

よち登る小坂の山の夕月夜さえてひさしを照紅葉哉

松尾谷といふ所に菊の咲るを見て

おりのほるひさをまつ尾の谷河にかほり出たる菊の下水

山梨のころかり月といふことは南より東へ山の

尾の長くゆたかに見ゆる所より月出てみねの方

にのほるを里人の言なせるよしを聞て

旅人も憂さやわすれん山なしのころかり月の峰のほる頃

初雪

櫻山峰も麓も雪の花羽振ちらして飛からすかな

明治四年霜月東都にて

大嘗會行はせらるゝよし承り侍りて

天雲のむかふずきはみあふかなむ天照します日のもごつ國

明治七年一月二十六日竹所か男子儲けし時寄竹

祝

ふる雪の中に生つる竹の子は汝か八十路の杖ごこそなれ

明治十丑はわか六十一となりしかは一月の一日

にかくなんよみ侍る

たちかへりけふは六十路の坂こゑて又かすみたつ春にあふかな

勅題 松不替色

百々千々を経てもかわらぬ大空の色にひごしきまつの色かな

明治十年丑十二月七日大法主殿六十の御賀に松

久友さいふ事をよみて奉る

榮えゆくみのりの庭の松のみや久しき友ご見そなはすらん

明治十一戊寅一月勅題鶯入新年語

あら玉のこしは立ぬごめつらしくよろこはしげに鶯のなく

明治十年十二月碧桃翁七十賀に松皮色の羽織を

まゐらすごて

松の色に染し衣は君かため千代も八千代も着ませこそ思ふ

某の六十賀に位山の畫をかきて

むそ路ごはくらゐの山の麓なり君こそこえむ峰の松まで

癸未五月四日曉夢中よめるうた

ひごすしに西へくごいる月にまかせてそゆく身こそうれしき

夏 風

くれ竹の葉かけにひこつ星見えて軒端すすしき夏の夕風
位 山

秋ふかき霧のたえまにあらはれて檜原おくらき位山かな
寄 書 祝

からやまこ石にゑりたる文字すりは萬代つきぬ筆のにほひか
田近基徳四十賀に寄石祝

築なせる島わの石や八千こせをかさねむ君か例なるらん
白 水 瀧

空高き巖よりおつる白水の瀧は千尋の雲かこそ見る
瀨戸の孝池水の畫かくにつけて

親を思ふころのその深きゆえ世々經てすめる瀨戸の池水
高山近在の名所をよめる歌のうち位山

世の中に山てふ山は多けれこ位のやまにしくやまそなき

荏 名 川

春は花あきはもみちの散うきて錦を流す荏名の谷川

松 倉 山

あつき日に松くら山の神まうてきゆるいのちを結ふ眞清水

山 口 川

やまくちの小川の岸の岩つゝしいはぬ思ひにこかれてそさく

長 嶺

なか嶺の永き松原夏の日も暑さわするゝ蟬のもろ聲

洲 海 苔 川

春寒み氷くたきて君かため岡本川にすのり取るなり

白 雲 山

雪のあした花の夕も月の夜も芳野に似たる白雲の山

水無川

みそきする水なせの川に来て見れば眞砂の下をくぐる眞清水

車田

車田やめぐり來にける秋ここにみのる初穂は神にささげん

古川近在の名所をよめる歌のうち増嶋

神さふる松の木間のうめの花かをる御垣に鶯そなく

林昌寺

草ふかき秋の野寺のさひしさは見るもゆゆしき靈祭かな

山本里

いにしへのたふさき法の清峰にのほる麓の山本やこれ

氣多若宮

神垣の内外にしける花もみちたかざる幣のにしきなるらん

沼町

人見えぬ町のちまたも名のみにて水田の面に螢飛かな

稲葉

御佛の光さや見む稲葉山いねのわか葉にすたく螢火

高野

風すさふ高野の奥は苗代の水田も寒くささ浪そたつ

舟橋

舟橋に涼める子等は水鳥のわかさにも似たり浮つ沈つ

貴船社

いつの世に水さかまきてこの岡に舟こきよせて神のまします

堀田森

植わたす 田面に月のさえくゝて影さへうつす山ほこゝきす

住吉神社

年ふりし神の社にふさはしく五百枝さしそふ松そ木高き

大歳森

大神の恵みたふごしかけて千す千かひ八百かひ秋ゆたかにて

小島城山

荒わたる小島の城はなのみにて木の葉かくれにふくろうのなく

岡前館

いにしへは大宮人の居ましける御館のあご、今もいふなり

細江

菅鳥の羽音もそゝろ身にそしむななき霜夜の明や待らん

歌塚

歌塚に名のみ残れる青柳は柳の御館訪へごこたへす

大野

おほろ夜にすゝきのまねく大野原あはれさひしく鶉なくなり

宇津江

八重雲のうつ江の山の瀧津瀬は四十瀬の落る水の河かみ

木曾垣内大佛

いにしへはいかなる寺そこの里に古き御首し残すみほごけ

半田山篁石

いつの世に作りし物そ柚人の石の箱こそふしきなるかな

八日町古戦場

争ひし軍のあごの篠原に誰乗すてし駒鳥のなく

安國寺

國々の民やすかれごすめらきのこゝろは朽ちす五百年経ぬれご

廣瀬

岩もなく音なし川にうつる花木梢をわけて遊ふ水鳥

あしめ瀧

瀧川の岩間のつゝしもえ出てなみの花さへくれなるの色

明治十七甲申一月勅題 晴天鶴

そら遠く曇りなき代の朝日かけふしのねこえて田鶴わたる見ゆ

春の末つかた(四月十日)おのれ京都にもものしけ
るに我兄君ご姉君ごは月も日も(四月十九日)同
しうして身まかり給ひぬごなむさて夏のなかは
に歸り來て兄姉のすこやけきおもわをもごひま
ゐらせむご思ふ心もくつをればて現には見得奉

るごごかたく夢野の露ご成給ひぬあさましごい
ふもなか／＼おろかなりご御佛のみ前にぬかつ
き奉り仰見れば消のこる雪ならて白妙の壺只二
ツのみ残りけるにあへなさ君たちの面影やご拜
み奉るにもはふり落るなみた夏衣の一重にあま
るうらなくむつひかたりあひしも今はいふごご
の葉さへなく／＼もおくれていごなつかしうな
けきまごへご西へ行にし人たちはさそな樂しか
るらめあないみしあなかしごしご拜み奉りぬ短

歌三首

なか／＼にあはれごいふもおろかなり今は樂しき君ご思はて
雲をわけいりにし月の影きえて山の端さひし曉の空

知らせごはしらて聞しかほごきす都の空を西へなきゆく

明治十八年乙酉一月勅題雪中早梅

ありかたき御代の朝居の高まくら雪見る窓に梅かをるなり

春 曉 月

ほのくご霞しらめる山の端に残るもあはれ有明の月

野 若 草

めつらしく雪の絶間に萌出るまたうら若き野への若草

立豹の學務委員たりし時おふけなくも

朝廷よりつごめよろしとて菊のまさるつける硯

笛ご玉篇といふふみひご箱ごを給はりければい

ごかしこくかたしけなさのあまりによみ侍る明

治十七年九月

かしこくも恵みの菊の硯笛千年も匂ふ家の風かな
大君のめくみの文は世々の子か道のしるへの光りなりけり

長谷川瀏（桐山力所男なり長谷川家の養子ご成

清所ご號）古川の里の戸長ごなりておもき役を

もつごめ上はさらなり下々まで何事も能つごむ

る人なれば皆人のよろこひ有しか哀なるかな常

ならぬ風にさそはれ明治十九年十一月二十四日

あえなくよみしの人ごなりぬ年三十三

おしめごも甲斐もあらしのさそふ風若木の枝を折そかなしき

十二月十二日冬暖墓参して歎冬の芽を得て歸る

冬かれのさひしき野邊にめつらしく春に先たつ富貴芽を取る

明治二十年勅題池水波靜

明らけき國の光は池水の底にも見ゆる日の御旗かな

明治二十年五月細江の歌塚成就しける時是は去

明治十年に假建今度再築なり

おく露もしけき細江の菅の葉にすかれる月の影そさやけき

日本武尊

西東あたむやつこをうちきため世をしつめます神はこの神

明治二十一年の元日に

越えく／＼て七十路あまりふたごせごつもる頭の富士の白雪

勅題 雪 埋 松

吹風の琴のしらへもうすもれて雪にしつけき峯の姫松

四月十七日氣多若宮御祭に空も長閑に梅さくら

花盛に咲ける

花さかりしつけき空に風もなく幸ませるけふの御ゆきそ

明治二十二年勅題水石契久

大み國守りの神の石清水きよく流れて契りひさしき

曉 鶯

あか月のおくらき窓に吳竹にふしごはなる、鶯の聲

明治二十二年の秋靈壽院殿飛驒國御巡化在しけ

る時九月二十二日おのか家へもわたらせ給ひけ

れはみき奉りけるにいご恐こきおふせ言ごも有

ければ嬉しさ言はん方なくてつたなき老のくり

ここかくなんものしはへるあなかしこ

山かつの柴の戸ほそもいごひなく法の月こそ照しましけれ
かしこしやはにふの小屋の板ひさしさし入月の影きよくして

なからへてめぐり逢こそ嬉しけれ柴の戸ほそにみつはくむ身も
生家野村か跡のあはれなるを見て

老ほれて思ふ甲斐なきはかなさよ野村の跡のしけき草の葉

奉賀大法主殿御退院祝日十月七日ご承る御年齢

七十三

色々の雲にあらしに凌來てつはさやすむる千代の眞なつる

明治二十三年一月勅題寄國祝

明らけき御代の光のあらはれて神風にほふ日のもごつ國

明治二十三年はめつらしく舊臘より雪ふらす春

となりても暖氣なり寒暖計或は五十度或は六十

度我七十有四才さなれども如此不知

老か身におほへぬ春の長閑さに消ゆる雪なきけふの七草

○

予寓桐山竹所家旬餘。與其父東村愛敬俱至。欲謝其情
不知所爲。聞東村年過四十而學詩。因請其稿讀之。有
木葉蕭々下。秋風欲暮天。衆禽飛不得。孤隼立岩肩。
之詩。此篇神俊可愛。次韻以充木桃之報云。辛酉初夏。
石秋劉翥君鳳。

情話今同夜。離居昔異天。頗有吾廬趣。好休行李肩。

桐山氏萱堂年過古稀。康健日加。蓋以子孫孝養之篤也。

一日子東村。孫竹所觴予其堂。賦此以呈萱堂。々々愛

石及一帆青。故及。

阿母閒居處。把杯人意醒。帶苔三石白。立雨一帆青。飽受子孫養。定同
龜鶴齡。朝誦琅々響。無量大壽經。

霧山翁遺稿

霧山翁遺稿

此境明感照孤床酒
醒春香轉空長夢
素以詩如得解至
耳聽思亦為空

古碑三
字
印

移竹

掃地新栽三四竿。生風迎月又含煙。此君真個清人骨。昨夢遙飛渭水邊。

秋日訪隱者

松竹娟々雨後風。秋山高聳路僅通。茶煙颺處敲茶臼。家在夕陽黃葉中。

題山水圖（甲賞）

雨歇斜陽好。殘雲在翠嶺。江天無鳥影。只有一歸帆。

註 右萬延元庚申年六月七日劉石秋先生高評、甲詩屬子賞與、社中九人詩數四十四之內、甲賞湘雨三、中所二蘭室一、東梧一也。

蓮

蓮池雨霽碧波寬。把酒吟人倚夜欄。水靄蒼茫花不見。清香一陣襲衣寒。

新秋卽事得尤

幽窓眠起雨全收。山色蒼々嵐氣流。樹杪泄來斜日影。蟬聲先占一番秋。

松窓煮茶

留客山窗日正酣。翠陰濃處坐清談。颼々松韻生幽鼎。裊々茶煙繞石龕。

對竹 (甲賞)

幽居偏愛竹陰涼。鎮日無人午睡長。山雨灑來聲細細。一般風味夢瀟湘。

梅雨新晴

霖雨初收嵐氣清。幽人兀坐倚涼棚。夕陽深照青槐外。聽得新蟬第一聲。

註 右申年七月五日廣瀨旭莊先生高評、先生入國七月四日夜着、同六日八幡山開封、甲詩屬子賞賜、詩朋十有三人、詩數百二十四之內、甲賞湘雨二、畫餅一、蘭室二、東梧一也。

搗衣

雨過樓頭山月殘。羈人半夜獨憑欄。誰家砧杵驚秋夢。聲帶淒風冷露寒。

夜歸所見

夜深歸路靜。月黑水淙々。讀書誰氏子。燈影竹間窓。

菊 (甲賞)

東籬入素秋。金蕊殊清絕。何物比君姿。當年陶靖節。

註 右申八月二十七日京師劉石秋先生高評、十月二十六日歸、於歐壑室開封、社中八人、詩數八十二之內、甲賞湘雨三、醒石三、畫餅一、老仙二、鳳陽一也。

夜雪

寒入殘缸燈不明。枕衾如鍊夢難成。竹間積雪應盈尺。漸失蕭々瑟瑟聲。

湖上晚歸

秋天雨過暮山遙。枯柳斜風送寂寥。漁艇溶々人去盡。一行雁影落寒潮。

註 右申十一月十三日京師劉石秋先生高評、(親父在京中爲登)辛酉二月廿六日開封、甲賞師竹五、鳳陽二、湘雨一、賈叟一也、外老仙、秋碧合六仙人。

榮松亭席上賦贈行映尊者

閑雲野鶴本同然。情話何妨俗與禪。最喜新知如舊識。眞成詩酒好因緣。

春遊晚歸得晚字

看花又看花。一路行忘遠。世間此適無。且乘牛背穩。鳥囀雲外春。
酒香村店晚。自今不在家。橋頭幾往反。先人戴星出。後人踏月返。

庚申十二月亞父力所君大祥忌、賦呈肖像下、君有

梅花百絕竹五十絕。

三年如一夢。對月憶高姿。何處遺芳在。梅花百絕詩。

辛酉新正試筆畫富士

瓶梅窈窕媚慈顏。春在壽杯酬獻間。醉來揮得如椽筆。先畫扶桑第一山。

江村春遊 (乙賞)

垂柳籠煙雨初收。溶々淺水抱村流。偶然得句倩誰語。溪上無人伴白鷗。

註 右酉二月晦、遠山雲如先生被來川上氏、憑請高評、三月一日老仙宅開卷、甲客秋碧一人、
外師竹老仙吾等也。

曉發大原村

數聲雞語出柴關。荒驛人眠燈影間。疊々白雲親舍遠。溪山一路懷家山。
郡上道中

溪山一路晚鶯鳴。十里落花詩思輕。行覺隔雲城已近。春人拾翠趁春晴。

舟自上有知下河渡

春川雨霽水如油。柔櫓搖々送客舟。杜宇數聲鳴不斷。落花時節下濃州。

垂井驛早發

行笠戴星出。蕭々孤驛鐘。嶺頭旭日上。人影高於松。

賽清水寺

清涼清水寺。花落樹陰青。思詩句未就。間誦觀音經。

同劉石秋先生及湘雨君發京

旅憂似慰老鶯聲。夾路松林宿雨晴。今日逢關吟醉出。不知長入幾年情。

歸家

吟袖颺々幾處遊。山光水色趣無儔。從來才拙詩難寫。欲說前蹤不自由。

註 文久元辛酉暮春八日、同湘雨君赴京師、初夏到浪華宇治再入京、四月十四日同劉先生及湘雨君歸高山。

梅雨中作 (甲、石秋先生評)

書窓連日暗。鬱々不言詩。兀坐茶煙側。閑愁梅雨時。新苔侵屋壁。深竹蔭簾帷。門外無來客。塵封一局碁。

溪上晚歸 (三十六點、石秋先生評)

吟步不知晚。涼風一綫通。岸頭隨酒友。橋上伴詩翁。鐘響暮雲際。舟歸初月中。鷺鷥去無跡。遠水接青空。

註 湘雨三十九點、風陽三十六點、修齋三十六點、醒石三十四點、晝餅二十九點、老仙二十五點、師竹十八點、秋碧十二點

夏 曉 (二十二點、石秋先生評)

宿醉思茶坐。雨收涼氣清。穿林孤鳥起。度水一螢行。殘露蕉窓滴。曉風落葉聲。梅天有奇事。晨旭放新晴。

註 湘雨三十一點、醒石三十一點、晝餅二十九點、師竹二十四點、秋碧二十四點、石岨十九點、修齋十五點、風陽二十二點。

夏日同劉先生遊徜徉園、課題午睡

四壁隔塵陌。竹陰幽睡催。晴窓無鳥語。閒枕有風來。一縷香將盡。孤床夢始回。誰知此中味。斜日射林隈。

仲夏九日夕月波樓離筵呈劉先生

匹馬匆匆去。此盟何日尋。夏雲人事變。暮雨我情深。離愁双行淚。生芻一束心。橋頭空目送。天末見歸禽。

隨劉先生遊苞石堂

連座同吟酌。悠然意所隨。壁間三尺畫。堂上一篇詩。庭樹秋聲早。山莊夏景遲。主人偏快濶。顛醉百無知。

辛酉八月讀書新月樓落成喜賦二首

欲覓此生容膝處。經營早已見成功。琴書暮對牛山月。簾幕朝颺鞍岳風。雨歇欄頭新樹嫩。鳥啼檐外落花紅。四時好景詩應記。都入淨窓明几中。洗硯凝吟咏。悠然解我顏。落花籠遠寺。暮磬響前山。把酒歸雲畔。讀書新月間。小樓堪可愛。望裏是仙寰。

夢謁亡亞父力所居士

更漏聲傳欵枕時。殘燈生暈澹書帷。分明記得昨宵夢。侍坐几邊聞說詩。

春曉

昨宵梅下醉。醉夢帶香薰。何物來呼醒。嬌鶯隔宿雲。

註 右六首(節一)文久二年壬戌春二月桃村畫伯上京之節、牧百峰先生受批閱、三月一日桃村

宅開卷、靜山、師竹、小泉、竹所等也。

春晚出遊

杜鵑時節雨兼旬。忽放晨晴山色新。好向牡丹村巷去。出遊無路不關春。

牧童圖二首

黃犢驅來村路通。青郊十里趁春風。夕陽影裏被蓑睡。夢在淡煙芳草中。人間別有小神仙。只在落花芳草邊。孤影牛歸柳坡月。一聲笛破暮村煙。

美人吹笙圖

脉々春愁奈此宵。漏聲滴盡酒先消。玉爐香燼月如水。背倚梅花吹紫簫。

初夏卽事

欣々新綠蔭清池。偏愛林園夏景宜。閑泛水來鳧子母。忽穿苔出竹雌雄。薰風一榻倦眠處。斜日半窻呼酒時。醉裏要拈新句去。春前未了看花詩。

五月八日夜、同春濤先生及諸君賽國分寺

晚伴詩客去。追涼初月中。忽有懷舊淚。豈無新句工。呈佛々不答。使人憶館翁。

註 春濤先生尾州一宮人、壬戌四月十五日入高山

夏日同森先生及諸君遊東山諸刹到五雲壇

新霽如有約。各自出柴關。有樓多臨水。無寺不倚山。羊腸攀曲磴。魚貫入深灣。遠鳥度晴澗。疎鐘出午雲。老僧時一笑。煙颺竹之間。哦詩和妙偈。坐石煮清潺。倚松涼欲滴。看山倦且眠。不知茶已沸。恍爾聽新蟬。

送春濤先生歸鄉、時約重九日會于養老千歲樓

柳外風多馬影斜。送君歸養老親家。預期重九一樽酒。千歲樓頭醉菊花。

江上送人圖再送春濤先生

暮雨蕭々山下路。殘煙靄々水之涯。可憐橋上一株柳。吹到秋風又別離。

壬戌七夕

露滴碧梧秋氣催。好移小榻倚庭隈。詩人不管穿針事。唯向双星醉一杯。

月 梅

風吹双袖夢先殘。扶得春愁倚玉欄。誰識暗香疎影夜。橫斜唯有月魂寒。

留春亭送大夢先生之越

臥牛山色濕依微。雨入楓林洗夕暉。却是秋風搖落日。留春亭上送君歸。

秋盡日送大夢先生自古川到細江

送君秋盡日。黃葉與秋深。寄語淒風裏。且休驚客心。

寄大夢師於越中

日伴佳人酒應酬。先生自號醉鄉侯。朱欄干外紅燈影。夢在宮川十二樓。

註 大夢先生美濃佐波村觀音寺、文久壬戌初秋再遊、有倚遍宮川十二樓之句。

美人携去上紅樓。佳酒嘉肴儘自由。聞說富山多飲侶。亦如此際八仙不。

註 先生高山客遊中選飲中八仙人、則富田節齋、舟阪畫餅、僧荷洲、杉下苔石、桐山中所、福田益齋、屋貝清風、山崎醒石之八名也。

題芳山櫻花圖 以下癸亥稿

綠酒紅裙興共深。東皇厚澤溢山林。樹陰留客花陪坐。廟外思詩風入吟。
千朵香雲春靄夕。一痕微月夜沈沈。此間尤想南朝迹。長護忠臣未死心。

閑居夏日

心中無一事。終日坐雲根。我友牛山在。依々來入門。

林館避暑

雖非袁氏宅。偶坐對園池。魚躍荷浮上。鶴眠松靜時。泉聲能洗耳。涼氣
似呼詩。好是借陳榻。華胥夢裏知。

春日過山寺

爲避綺羅侵。徘徊入寺林。僧歸啼鳥散。鐘歇落花深。禪味宜閑適。春雲
易午陰。詩成不題壁。小立倚松吟。

春夜

隣樓宴罷笛聲寒。春衣料峭夢又殘。起捲湘簾情如水。微月澹々夜欲闌。
春人悄立梨花背。不知誰氏姊耶妹。

送右華生之京

杜宇過邊雨未收。數聲恰似訴離愁。多君欲學倪黃手。挹得雲煙也自由。

讀史有感二首

秋吹落葉打軒楹。策々如聽萬馬聲。滿眼英雄渾逝矣。露啼蟲弔月三更。
除去前狼後虎來。冥茫八極總如灰。一燈明滅興亡跡。卷裡英雄叫不回。

秋盡

病餘扶步暫徘徊。屈指昨遊流水隈。入寺曾題紅葉句。訪樵偶酌白雲杯。
日斜疎樾歸鴉宿。秋盡空林暮雨來。猶有霜前殘菊在。依然一朵對吾開。

柳

長堤三四里。清蔭抱村墟。雨暗鶯藏處。風輕燕到初。拂來行客笠。隔斷

讀書居。嫋々堪攀折。奚童又買魚。

題 畫

春江淺々水紋斜。兩岸輕煙不見家。借問仙源何處在。歸漁舟上載桃花。

癸亥夏六月欲遊立山先賦

旅裝輕似打包僧。遮莫前途是暑蒸。聞說立山寒尙甚。去餐六月幾團冰。

十一日到古川

行覺征衫晨氣濕。模糊殘靄未全開。雞聲響處一村出。人影分邊三馬來。

到戶谷途中

懸崖又危棧。何減蜀道難。同侶不堪渴。樹根忽得泉。一掬洗心肝。再掬忘塵氛。不啻芳茗好。風生兩腋間。善哉許巢輩。終身不出山。

加賀澤村是飛越分界處

天無雲影暑如烘。飛越山分路自通。崖有旗亭宜小憩。一窻併占兩州風。

十五日上立山三首

游心久是屬仙巖。不厭重々幾碧巉。忽喜清風當面起。美人杉抱美兒杉。百丈巉巖百丈谿。襲衣冷氣午凄々。人間餘雪未全盡。六月中旬鶯始啼。誰開此地賣神奇。恠鳥聲中硫氣迷。笑彼山僧慕銅臭。偏張威福說泥犁。

宿 室 堂

躋盡幾艱難。恍疑入雲間。日落猶覺餘輝在。不知月出如車輪。驚見光彩異下界。人近于天月近人。

曉賽靈堂

妖氛散去曉光濃。人立于空氣似冬。瞥見大陽湧出處。脚邊爭捧幾千峰。

富山城市所見

立山白嶺共峻嶒。六月無人知暑蒸。城市何圖涼可買。聲々呼去幾擔冰。

伏木港望北海、聞說梅雨之間見蜃氣樓

遠帆如蛺蝶。近帆似鷺鷥。一來又一往。總任便風吹。曾聞越海五月生蜃氣。瑤樓瓊閣望依微。恨殺舟人不識字。停棹誰賦一篇詩。

八尾旗亭

羈亭幾處暫吾家。情緒紛々亂似麻。予美今宵結何夢。窓間羨看合歡花。

過四十八瀨

難記阿爺顏。昨夢破無痕。芒鞋藤笠人匆匆。松村竹塢路彎々。四十八瀨行將盡。雲間忽認故鄉山。

歸家後二日同小泉賦

耳底猶留北海波。雪鴻奈此昨遊何。與君同醉今宵酒。夢裡重聽越女歌。

高山雜詩

最中橋外柳吹煙。第一宮流波作聯。翡翠畫簾春不卷。月前偷摘七條絃。

月波樓

流霞春酌玉蓮杯。吹醉香風一扇開。月在松梢鶴將睡。明宵又約抱琴來。

觀松亭

酒痕恰似淚沾衣。午枕夢薰雲四圍。欄角新蟬鳴又絕。紫藤花上雨霏々。

紫藤樓

十二簾垂酒影沈。洞簫吹絕滿樓深。何人載夢揚州鶴。煙柳低邊春月陰。

揚鶴樓

昨宵有約何邊酌。酷暑困人醒未醒。弄扇神明壇下去。月凉山氣水聲亭。

山氣水聲亭

春闌紅裙六幅風。五雲壇下落花紅。嬌施各自寄香願。北斗之祠天女宮。樓々姊妹幾群過。鍛冶橋邊初月多。又爲醫王添妙偈。森君詩又館翁歌。妾家住在錦江東。翠帳紅啼春色濃。昨夢真成採蓮去。白雲山下與郎逢。香雨落花春欲老。彌生橋畔恨綿々。與儂同傘相扶去。來賽櫻山歡喜天。

踏歌時節月如銀。涼影露香秋一新。好倩玉纖麾羽扇。筏橋人認鍊橋人。
江都樣雜京華樣。陣粉圍香惱殺人。薄晚白雲山下去。蓮花沼外賽金神。
露華秋滴藕絲裙。仙桂風薰月照初。樓上有期人未到。嫦娥影裡讀盟書。

月照樓

美酒樽前供八珍。短歌小錦洞天春。一枝瓶裏花如語。暮雨灑來楊太真。

錦洞樓

玉簫聲中暮氣澄。柳陰淡々月將昇。春人雜沓鍊橋去。一點忽挑戲馬燈。
十二欄干一派流。低簾高燭映波浮。那邊亭子吹春籥。暮月無端煙柳愁。
萬縷垂楊細似腰。風姿涼影舞衣飄。月前好與阿郎約。更逐飛螢到鍊橋。
家々爭競屏間幅。一掃清風墨淡如。莫是山名稱二老。白雲師竹臥牛書。
人影曉開桑市場。瓜茄夾路露風香。誰家姊妹翻雙袖。提去牡丹兼海棠。
高寺低寺花影重。南樓北樓曉雲濃。阿郎含笑簾前立。一點春紅美女峰。

觀松亭外松梢出。揚鶴樓邊鶴影搖。袖裏盟書屬誰手。中宵猶倚最中橋。
昨夜何樓鬪酒筵。神明壇下曉清妍。朝來早有洗醒客。一線紅懸旭日泉。
曾學琵琶一曲詞。春來夜々付情絲。東游樓上待郎處。海老坂頭月上時。
佳子好郎跨鶴遊。錦江也是小揚州。東遊客散北游到。春在參差豁指頭。
比隣姊妹可憐生。拈出練絲各有營。不管鑠金盛夏節。縑車聲雜繭歌聲。
六角堂邊彼岸天。香雲帶雨濕嬋娟。一支春傘傍花立。知是誰家瓜字年。
三月東山春色薰。晴筇午傘綺羅分。狐王廟外人如玉。天狗祠前花似雲。
隔花鐘磬午雲低。春服晴分路欲迷。掃黛溪山鰕坂北。招人垂柳鍊橋西。
宮川自古不容船。採葦從來似採蓮。儂亦明朝與君去。錦山松下割新鮮。
脉々琴絲清似秋。簾波漾々影將流。春宵一刻花時夜。又上千金月照樓。
書畫千金都下雄。一朝何事入飛中。無心只合白雲伴。山客爭稱海客翁。

海屋一號海客天保中來遊

秋冷神通水一涯。月波深處醉金卮。旭翁莫是王之渙。姊妹呼來唱竹枝。

旭莊萬延庚申來遊

雲如高士別才思。唱出宮川好竹枝。山海颺然羽衣去。千金不換女郎詩。

雲如文久辛酉再遊

大夢先生也絕才。偈詩多自醉中裁。不關到處名兼利。只說生前酒一杯。

大夢文久壬戌再遊

宮水宛如銷夏灣。星宵節近晚涼還。奚童爭點松炬火。一道紅連不二山。
螢火飛邊夜熱消。出門最好是良宵。人間也有二星約。鍛冶橋眞鳥鵲橋。
雪正消天近社公。新晴二月漸春風。山王祠外山含笑。花里村邊花未紅。

甲子元旦

熙々萬物入東風。水態山容佳氣同。書牖春搖梅氣外。慈闈曉啓鳥聲中。
老親唯恐愁頭白。新酒相傾到頰紅。宛似華胥國間樂。笑談戶戶出簾櫳。

竹所雜咏七首

直去至竹所。袁公愛竹情。我性酷相似。取爲書齋名。清風細々夕。偏和
讀書聲。

莫道吾廬窄。猶藏千古藉。窻几咫尺間。成敗利鈍迹。百蟲寂無聲。東方
看己白。

士衡當代才。弟亦燒筆硯。堪笑石季倫。絲竹盡其選。千金買綠珠。不如
書一卷。

引睡莫如書。信手頻卷舒。五柳先生傳。一讀想其居。清風忽相誘。羲皇
到吾廬。

文叔取天下。雲閣列異才。故人嚴子陵。一竿在釣臺。一犯帝座後。富春
歸去來。

黃昏無客至。兀座倚前楹。已喜秋夜永。又憐秋氣清。此際宜開卷。呼童

取短檠。

童子點燭來。一窗光華開。告汝莫多言。吾將啣以枚。默座獨思道。秋氣滿林隈。

國分寺避暑

三級浮圖表梵臺。吹涼銀杏樹佳哉。國分寺似慈恩寺。幾箇詩人避暑來。

甲子中秋無月是日先室大祥忌故及

漠々暮天雲影昏。中秋景物易消魂。々々獨捲湘簾坐。無復仙娥照酒樽。恨殺中秋不見君。愁雲漠々誦招魂。今宵却喜無清影。免向傍人掩淚痕。

秋晴出遊同劉冷窓先生竝湘雨靜山賦

吟筇何處去。徐步入郊原。片石表叉路。一橋分兩村。秋花圍廢宅。老大領柴門。欲賦眼前景。遊人易斷魂。

同冷窓先生及中所訪白雲居

插花畫竹日如年。八十高僧瘦似仙。夢裡亦知清福足。白雲山下抱雲眠。

乙丑新正

破曉雞三唱。氤氳瑞氣生。日升松雪色。春動竹風聲。笑語交杯酒。逢迎盡弟兄。燕詩雖不巧。聊以慰親情。

寄懷冷窓先生在日野

每接杯觥便思君。吟情一片亂紛紛。江東相望三千里。春水春天多暮雲。

和碧桃老人災後詩、乙丑二月念五古川有大火

火氣空射紅似日。天風震怒欲傷人。千家一夜歸烏有。燒却梨花萬朵春。

梅宰居士遺硯詩竝引

居士姓松村名寬一、字中正號梅宰及茂松清泉園主、我飛驒人也、幼而好繪事、性剛毅有大志、而才銳過人、遊京師學畫小田海仙翁、既成歸鄉名聲大發、居常讀經史嗜篆

印又酷好酒、有乞畫而饋珠玉者、皆棄以易酒、頽然且醉
家產爲墮、無儋石之儲晏如也、安政己未春正月受小野
大王之命、入京獻畫、王悅之賜法橋及居士號、既歸德望
益高、今茲慶應乙丑春三月廿一日病終于家、年五十一
歲、居士於余父執也、臨卒以其所常用之硯遺余、且囑
曰、余久欲持之遊四方、揚名聲、今不果而死矣、子幸
代我繼此志、余聞之不堪悲、自憶不才焉能付托之意、
若能墨焉、筆焉、使世知居士社下有一人之詩生、則居
士之目或瞑於地下矣、

松爲姓兮梅爲號。瘦骨亂鬚見異操。妙畫宋代李伯時。誰知學植有根輿。
鐵門限破人簇來。酒債日消畫債堆。醉中一揮千紙了。幹棄寶玉如輕埃。
小野法王傳命召。素縑落墨光照耀。賜爵給官留不得。故山歸來笑長嘯。

春風一夜落梅花。玉人逝矣仙駕賒。餘香長浸硯池水。千歲不消動墨華。
臨死遺吾囑遺志。驚才何敢當付寄。磨墨賦詩却哭君。恍覺靈魂降幽雲。

恭次高韻賀節齋先生栖隱

仰君卜築落成新。坐對青山吟且伸。風月場中長寄跡。圖書堆裏好藏身。
多年宿志逃名達。今日幽情占隱淪。樓上把杯先一醉。笑看車馬滿城塵。

丙寅榴花月念日富田節齋先生席上贈曾我耐軒翁

喜此初陪飲。高風久慕欽。酒香浮席上。螢影閃庭陰。文字緣何厚。晤言
情正深。偏愁涼夜短。天漢曉沈沈。

山下松處至賦似

謝君情意深。雨後更來尋。幸得三餘友。聊同半日吟。壺中無美酒。窗外
有幽禽。莫話世間事。春蟾欲上林。

富田節齋先生之詩、有人傳唱之崎陽、偶遭清客錢子琴者來

在其地、賞嘆殊甚、爲之評語而贈寄焉、賦此賀之、

平生吟咏有餘師。海外人稱絕世詞。預思子琴歸國後。一時爭唱大東詩。

同前次其賞嘆之詩韻

官情餘意作詩仙。聲價傳稱海外天。從古大東吟咏富。此篇上下一千年。

靜山上人見訪乃招吟石共賦

誰言秋夜永。頻聽漏聲傳。未療煙霞癖。自多詩酒緣。剪燈論往事。聞雨
和新篇。世上利名念。逢君忽脫然。

十春詞與小泉鬪詩 丙寅三月

小螺帶笑使人迷。步屣移來流水西。午靄滿山花掩映。春風一路寺高低。

春山

一身深謝拜恩榮。昨侍華清多宿醒。夢在君邊猶未覺。隔花宮漏報天明。

春晚

半面嫦娥一曲歌。春宵宜宿阿儂家。醉來偷與蕭郎約。明日解醒何處花。

春夜

踏青未敢出房櫺。午枕眠濃夢思通。猶恐重簾春料峭。小籠深護小黃公。

春寒

垂楊冪冪草芊芊。春在淡陰濃靄天。無復牧童煩指點。青帘隱見杏村煙。

春陰

黃牛渡處午風暖。綠鴨浴邊斜日頽。波色蕩搖香縹渺。春舟一棹載花來。

春水

芳草風香十里汀。春多蝶醉又蜂醒。東家阿妹西家姊。輕傘羅裙去踏青。

春晴

一刻千金夢是真。樓々占得二分春。料知月亦多情者。偏照花迷柳醉人。

春月

簾波激灑鳥聲喧。金鴨香殘一室溫。午枕撫來春睡穩。夢爲胡蝶入君園。

春夢

情絲脉々不堪長。永晝煙消一炷香。細雨輕寒無客到。牡丹棚下讀西廂。

春雨

呈繳城詞宗次五岳上人韻 丙寅仲冬

隔歲相逢鬢髮新。白雲憶昨打包身。筆端欲灑詞源水。心裏不污衣上塵。
宿世由來隨佛性。一朝容易作儒人。前生知是僧無本。到處才名稱絕倫。
忽然著髮志逾新。千里江湖苦學身。雲外更攀天上桂。筆端欲掃世間塵。
五經遍讀便々腹。三教併論磊々人。回首一燈十年業。羨君清賞更無倫。

送繳城詞宗之豐後

相遇未經日。春風又別杯。笠檐江上柳。鞭影路傍梅。文壓三都賦。詩鳴
八斗才。遠遊冠已着。應陟幾崔嵬。

丁卯首春穀價沸騰多菜色者因有此作

妻啼飢。兒號寒。衣不須問食其貧。客年大雨田變海。客年大風石如塵。
賣牛賣馬稅未足。催租吏來叩門頻。君不見菽麥貴於連城璧。一杯之粥抵
八珍。南村北村多菜色。今年不熟奈斯民。

醉日栽竹

酣醉頽然姿。移來竹不知。小庭冷到早。短杪鳥來遲。片々受風葉。斜々
遮月枝。從今宜嘯咏。與我送生涯。

杜鵑

空山何物叫雲飛。正是羈窻夢破時。千里思家燈耿々。五更欹枕雨絲々。
影如孤雁看難定。聲比斷猿聽更悲。滿口血流啼不住。颺零人亦泣天涯。

送加納吟石遊學於京師、戊辰三月。

雖共遠遊志。今日恨不同。馬策揮殘月。衣袂振曉風。可窺扁倉迹。勿顧

花柳中。可計畢生業。勿求一時功。臨別無他事。聊欲告寸衷。莫言隔千里。夢魂夜々通。

万竹庵贈湘雨師

幽意憐君意。閑居黃葉秋。有書宜養疾。無事豈知愁。山近衆禽語。門深萬竹脩。不求世人識。對座一茶甌。

老將

霜鬢病骨兩如何。古匣塵昏舊戰袍。閩里守貧今日志。關山擒虜昔年豪。沈腰未肯拋龍劍。阮眼猶能讀豹韜。驚破南征據鞍夢。老駒嘶櫪一聲高。

石銘

非羊非虎。一塊雲根。其形如愚。默而不言。

上美女峰

東方山凹處遙見青一點。言是富士也

神遊年已久。絕境始相攀。杜宇濕雲外。黃鸝新樹間。清風換凡骨。冷露

滴吟顏。一髮東天碧。人言是富山。

恭題飛馱八所畫卷後

以下庚午稿

宿讎事古迹難尋。鬱々千山又萬林。爵岳雪寒生櫟木。細江霜冷付蒼禽。姊公辭藻風情在。金氏壘墟草色深。造物似慳功業沒。故生在老繼遺音。

細江懷古

姊公功業入桑滄。懷舊來焚一瓣香。石碣苔蒸偏落剝。蒼禽翅冷轉荒涼。秋風颯々茅花白。暮雨蕭々木葉黃。獨有忠臣裔孫在。千年盤據古川鄉。

晚秋宿袈裟山千光寺

滿山老樹媚秋霞。古寺遺蹤堪駐車。請看無情霜葉色。于今錦繡似袈裟。遙奉挽劉石秋先生

天將木鐸興斯文。海內詞壇稱絕群。仙駕遙々帝鄉去。遺編千歲仰芳薰。

恭呈宮原知事君侍史下

以下辛未稿

咿唔聲裏漏聲移。簾箔溶々春晷遲。史眼燃犀皇國典。吟腸泣鬼漢唐籬。
日暄深谷幽禽囀。雨足平郊小草知。聽取清風心若水。正襟對坐老松枝。

暑夜不寢

夜熱酷如晝。更於何處銷。尋涼時踞石。得句欲書蕉。月下梧桐暗。風邊
蝙蝠遙。彷徨小園裏。獨自到深宵。

壬申仲春重入西京作

萬店爭新各自開。四夷珍器積成堆。東山只有舊時色。軟翠嬌紅入眼來。

人力車三首

捲塵轟地勢揚々。困苦載人程路長。輾軋不因牛馬力。車丁終日去來忙。
載客街頭幾往來。滿身汗水灑塵埃。憐渠辛苦緣何事。三百青錢酒一杯。
代牛代馬若爲情。背汗奔馳了此生。以北以南隨指點。車輪軋々載人行。

浪華

聖帝望人煙。龍顏淚慘然。繁華千萬竈。誰復憶當年。
豐公雄拔志。一舉伐夷蠻。城址金湯固。巍然大似山。

拜楠公祠

行人來拜感滄桑。當日風雲尙斷腸。四海謀身皆戴賊。一家唱義獨勤王。
芳山依舊月華暗。湊水于今波勢揚。廊廟仰瞻盛世典。祠門赫々表榮光。

楠公

家與南朝相始終。湊川萬古泣英雄。普天無限勤王士。只以忠臣屬此公。

神港所見寄鄉友

未踏東土地。先試西海湄。橫濱與神港。犄角自爲岐。昇平恩波遍。遇此
輻湊時。蕃邦皆歸化。絡繹列旌旗。鄂墨葡萄亞。清英佛蘭西。其餘不遑
數。諸夷源々來。貿易市如織。和親情相宜。藥石又器械。骨角及絹絲。
天地入推算。痼疾亦可醫。事論窮幽奧。物理析纖微。幻鏡真能寫。小照

毫不違。秦胡雖相隔。恍似某與誰。燒石車運陸。輾軋鐵敷陂。書信敢煩人。電信不負期。況復海洋便。艤艫忽奔馳。千里一瞬際。不觸風濤危。萬物在窮理。機巧何足奇。人智不可測。造化有餘師。我今過此地。且悔來遊遲。悄悄空感慨。淒々更傷悲。僻鄉似鎖國。沿革未曾知。眼界屬蛙見。論說多管窺。聊欲寄鄉友。試寫數言詩。未學蟹行字。書就愧庸才。

神港、側有布曳瀑布

遠遊何可辭。神戶港開時。商館墨交佛。瀑泉雄又雌。人皆窮性理。物自競機奇。蠻客亦羅拜。忠臣楠子碑。

福原

神戶港連兵庫驛。滄桑已變舊版圖。妓樓絡繹接商館。娼婦狎來誘蠻奴。地下相國應瞋目。春風粧點福原都。

從神港到浪華船中作

蒸管聲中漸出灣。回頭已失後洲山。真成身似青蓮句。千里江陵一日還。沸々蒸煙輾火輪。萬邦今日近如隣。同船不復皇州客。中有南蠻缺舌人。

重三前一夕歸家、明日湘雨師亦還自東京

兩地風光共美哉。鳧川鷗渡趁春回。西京遊迹東京夢。一夜聯床入話來。

與福田朴堂飲、此行同遊

把杯對座削燈檠。話人曾遊最有情。憶起鳧川樓上飲。滿身酒熱愛泉聲。

癸酉六月廿三日恭賦二絕薦劉靖雍先師肖像下

檐滴聲收又雨聲。黃梅時節最傷情。今宵故奉遺篇讀。挑盡青燈一穗明。曾將筆硯侍書帷。屈指堪嗟歲月移。今日寥寥都下地。詩壇文柄孰能持。

郊行尋涼

城市不堪熱。郊遊聊試吟。趁溪尋水響。迂路就松陰。面頰暗蛾逼。脚跟蒸草侵。誰憐農父業。汗血灑衣襟。

次廣瀨淡窓先生村居韻

落葉如疎雨。紛々撲小櫺。孤生戀猿鶴。百事感雞蟲。燈冷苦吟外。酒醒愁夢中。功名吾豈敢。徒作種瓜翁。

雨中送春 以下甲戌稿

濛々絲雨濕黃昏。吾與殘鶯共斷魂。花事三春都似夢。篆煙一炷獨無言。伴愁詩句忽來枕。待友車聲空過門。惜別年々人欲老。怕看衣上酒留痕。

初冬赴古川途中、寒川大野地名

腰間此君在。不費阮家錢。落葉寒川雨。歸禽大野煙。農家桔槔外。漁舍石虹邊。行聽租丁話。慇懃說有年。

滌雪庵席上以屏風語爲題、用語中字爲韻、碧桃翁同賦。
載酒有人問字

隣童時問字。家婦常藏酒。爵祿復何求。圖書是吾有。

門雖設而常關

吟邊多綠竹。枕上是青山。不許俗人過。閑雲常入關。

讀書隨處淨土

晦迹山林裏。閑情日有餘。春眠一肱夢。夜讀十年書。

歸途所見

前宵雨。今曉霜。墜葉已狼藉。寒村又夕陽。路入蒹葭人不見。一行雁影落野塘。

霧山遺稿 第二

罹災行

維歲明治乙亥歲。四月念四日正中。小童來報似有火。火在舍北牆之東。
驚忙奔馳看烟焰。生憎此時起烈風。火熾忽燼千餘戶。神祠佛宇亦成空。
人力不及祝融力。防禦誰復有神通。中有一人焚死者。狼狽可憐烟幢幢。
斯災難奈蕭牆起。隣比有訴冤吾躬。天之報施何時是。黃金贖罪吾事終。
昨日是親今是仇。人情反覆何匆匆。爛額焦頭呼倨傲。饑妻凍子喚狂恚。
樹梢巢焦鳥聲哭。車轍水涸魚心窮。嗚呼世途滄桑變。百事總付一塞翁。

災後出鄉

可忍穉兒牽我衣。斷然拂淚向天涯。颺零今日寄何處。却就前途迷路岐。

登多度山

巖頭飛沫迸靈泉。養老之名萬世傳。一掬忽消滿腔熱。不知白日輾中天。

濃江途上

濃江風物慰羈情。好趁炎天萬里程。不破關頭月痕暗。老蘇祠畔子規鳴。

災後遊西京寓居書懷呈小栗栖蓮船師

處世真成如大夢。盈虧升沈共有期。今年何年罹回祿。西奔東走泣路歧。
刻似嬴政坑儒火。慘如崇禎失世基。窮魚無水悲涸轍。病鳥燒巢營何枝。
一朝決策離故國。阿爺膝下托穉兒。三伏不厭千里路。藍衫敝笠來天涯。
喬居也有桂玉艱。熱釜執炊欲依誰。廡下無復人舉案。空床偶被夜月窺。
孤燈明滅酒醒處。杜鵑啼破夢殘時。白水真人棄我去。一尊紅友聊相隨。
客囊有限看蠶食。世計多端或狐疑。讀書自誠又自悟。古人亦見遇傾危。
顏夭跖壽千古惑。喋喋何敢論是非。只恐身後名聲朽。幸有緇門鮑叔知。

聞說大鵬雄飛去。絕海之行亦何辭。

香頂師有支那再遊之意予請從遊結末及之

讀蓮船師北京客舍一百韻詩

一朝飛錫渡鯨波。萬里遊蹤妙偈多。真箇斯篇廣長舌。詞林應說富樓那。

寓萬年寺卽事

初寓高倉淨運院次移三條三緣寺今寓焉

三遷方是有吾家。書籍衣衾共一車。坐或學跌陪佛座。飯時斷肉喫蓮華。
門扉風叩詩僧到。樹杪涼生暮月加。杯酌聊供今夜飲。此般頓忘在天涯。
喬居幾處卜吾廬。載得琴書共一車。石上煮茶詩就後。窻前待友雨晴初。
任風門扇何須鎖。漏月松梢却愛踈。此際晏然高枕足。淹留未敢嘆歸與。

夏日與小松村上三原諸子陪蓮船師賽大谷

朝雨忽然歇。午天雲意殘。過橋逃熱鬧。移屣入幽觀。地淨納涼足。才踈得句難。新蟬聲不斷。石磴樹陰寒。

題蓮船師五臺山紀行後

波濤凌萬里。更上五臺頭。高塔離塵界。層樓逼斗牛。蓮華金蕊發。杖錫紫雲留。應是待師久。山靈企此遊。

秋夜卽事

自有容身地。何論是異鄉。未諳窮理術。欲學養生方。月下梧桐暗。風前蝙蝠涼。授衣知節近。機杼響隣牆。

月夜書感

焚香除長物。掃榻讀仙經。草密蟲聲淨。松深月氣青。百年憐幻境。孤客嘆浮萍。恐有韻人過。更闌門未扃。

乙亥九月十四夜同蓮舶師及小松三原諸兄作

此夜當中秋

樓頭捲簾坐。秋氣滿坤乾。蟲與客魂苦。月兼詩思圓。談深更漏轉。興至酒杯傳。遙思阿爺側。誰陪今夜筵。

夜窻聽雨

蕭條當此夜。孤悶向誰開。無事只親枕。有愁宜喚杯。燈沈人影淡。林戰雨聲來。故國催秋早。料知落葉堆。

初冬同小松棉里三原大受兩兄遊東福寺

觀楓節已過。却愛絕紅羅。山晚寒鐘度。林疎斜日多。仙橋橫澗底。雲棧偃巖阿。歸路吟行好。或聽樵者歌。

歸省作 十月

一百日遊彈指間。今朝又向故鄉還。此行不是繡衣客。惆悵看他畫錦山。

錦山
山名

岐阜與野村鐵竹晤

悲歡十年話。黯澹一點燈。世事多反覆。不愁沈與升。陰極則陽至。履霜必堅冰。

晚踰坂本嶺

孤行日落泣途窮。絕壁巉巖接碧穹。倦脚重如腰劍重。饑腸空似客囊空。
山寒乳鹿鳴微月。果盡饒猿叫晚風。恨我栖遲未全定。終年辛苦走西東。

過高山故宅趾有感

千里歸來暗淚長。家鄉今日似他鄉。徘徊故宅在何處。松菊不存三徑荒。

乙亥除夕歸古川寓

稚子在門知登音。欣然迎我笑談深。昇堂未聽阿爺語。解盡萬條千縷心。
漂泊單身在異鄉。夢魂夜々到高堂。故山歸日逢除夕。軟脚并斟錢歲觴。

丙子歲旦古川假寓記事

離羣南北不同天。千里歸來侍膝前。行李芒鞋纔昨日。椒盤屠酒已新年。
居惟知足如羈寓。身未停蹤亦宿緣。早晚遠遊吾事了。一家歡笑話團圓。

中村士寵爲祖母養老移居是重村賦贈

多年相宅地。維歲築田廬。豈啻避名利。也爲養老居。經營一朝了。燕雀

相賀呼。西北背市井。東南望郊墟。蛤城當屏障。鞍嶽映階除。官道雖咫尺。低牆隔毀譽。二頃皆吾有。比隣盡耕漁。園闊堪種瓜。池清可畜魚。窓欄看耘鋤。凡案足卷舒。屋前又屋後。只栽梅數株。今日值嘉會。況與羣賢俱。試把一枝筆。聊以賦後圖。高堂奉祖母。晏然送居諸。花下陪春酒。香雲襲座隅。清蔭納涼夕。風生扇枕餘。醉後喫其實。爽氣生肌膚。樓頭中秋夜。月來自蕭疎。不同凡卉木。樹影愛清臞。滿梢新雪曉。吟望捲簾初。應知生春意。歲寒志凜乎。羨汝梅爲友。長供菽水娛。侍坐無俗慮。日日讀仙書。芳名動四境。孝道稱州閭。詩成問諸賢。斯樂果何如。

靜山院師小祥忌賦呈肖像下

法主題肖像賜諡曰靜山院詩中及之

世道維新佛亦新。補翼誰足當其倫。勃然當日英傑興。欲除桑門舊染塵。
擇美去惡全枝葉。破邪顯正固本根。守成之功同創業。吾師亦爲斯中人。
生憎斯人有斯疾。故山歸臥志未伸。阿弟幸繼阿兄志。夙夜代兄事精勤。

醫藥終失回春力。仙駕一朝人白雲。慟哭豈堪顏氏天。是非或疑天道親。追謚更有法主賜。一幅肖像溢殊恩。生前功業知音在。身後榮名不朽存。焚香奠拜遺像下。拂淚聊賦詩數言。神彩秀徹清於水。道味閒澹靜似山。

觀地球圖有感

宛轉又宛轉。宛轉不暫休。其形圓似卵。號之曰地球。斯物日夜動。反旋固難收。空氣持地軸。中現五大洲。誰哉倡此說。西人漫坐籌。却思先聖教。茫茫如掩眸。又說廣寒宮。彼亦土一抔。奇辯似秦宓。論天極自由。望遠千里鏡。萬象其中浮。妙巧奪造化。窮搜無匹儔。物理若如此。天地亦蜉蝣。感之俯又仰。落月射吾頭。

丙子二月重出鄉

征衫掃雪白斑斑。破產蕭然出故關。恍見路傍梅一朵。依稀也似我兒顏。

京寓雜詞

激灑清流深淺宜。峯巒曾說臥容奇。憑車醉客過橋早。拾翠舞姬移屣遲。日晚高樓含暮紫。風暄垂柳映春漪。人生只合此中死。夜雨七年應不知。垂柳垂楊綠似眉。樓臺隱見水之涯。橋梁架鐵坦於砥。車轂載人奔似電。雲髮花鈿競時樣。鶯衫蝠繖趁新奇。鴨東景物最多事。誰向春風裁竹枝。賽會成羣暮又朝。昇平無地不塵囂。衣香裙影錦綾路。轂擊肩摩三四條。曉靄籠山花似笑。春風拂岸柳如眉。誰言信美非吾土。此際優遊客恨消。

送惠門教師歸豐後

不須羅綺與紅裙。一醉吟詩且送君。夜雨孤燈曾共坐。春風千里忽離羣。客中幽恨生芳艸。別後相思入暮雲。屈指再遊雞黍約。都城他日細論文。

春雨讀書

雖在都門住。絕無塵事侵。書聲一簾雨。香靄半窓陰。閒鳥時窺戶。幽花亦繞林。十年殆廢學。回首愧初心。

得家書有感

一朝破產出柴荆。遊跡萍踪感此生。醉裏對花花有恨。愁中聽鳥鳥無情。孤身何日占閒處。百事頻年皆不平。家信披來多苦況。燈前夜々夢魂驚。

丙子四月再歸省過龍馬嶺

行李輕如葉。蕭然入我鄉。溪流皆虎吼。嶺阪盡羊腸。鞋破前村遠。人稀去路長。世途多嶮阻。只合悟行藏。

同士寵遊林昌寺

午晴散步好來尋。古佛龕前艸色深。喫盡嫩茶塵夢醒。一聲清磬響風林。

京寓雜詩做菊池三溪翁體

鬢影衣香滿地浮。公侯邱趾恣春遊。當年故物今何在。調馬場連賣酒樓。樓頭花映橋頭柳。風外笛傳烟外箏。不識誰家雙比翼。同車輾轉趁春行。人生行樂在鳧川。山媚水明真可憐。多少樓臺春富貴。牡丹如笑海棠眠。

仙伴相迎笑語親。鴛鴦衾裏夢中身。歸來恐失舊樓止。也是天台山館春。鐵橋東岸好停車。楊柳認來蘇小居。玉手纖々調下物。水晶燈影夜屠豬。不須鶴背到揚州。陌上倩車過畫樓。熊掌駝峯亦陳腐。爲君呼酒割醉牛。春宵一刻忽然遷。曉漏沈々覺我眠。扶起餘醺捲簾坐。玉杯快飲炭酸泉。蝠織鳶衣意氣揚。爭新各自學西洋。請看風俗逐時改。亦是人間大劇場。黃金臺又避風臺。幾簇錦車街上回。別有羈人消客恨。楊肥趙瘦去還來。賣水棚連賣酒厨。滿川醉客聚如鳧。須臾一陣送涼雨。人影東西南北趨。海有蒸船陸瀛車。二京雖隔比隣如。青襟今日還多事。可學英書學佛書。

蓮生倒騎圖

箬笠衲衣倒馬騎。夕陽影裏向西之。畫圖誰哉寫偉僧。不問便知蓮生師。維昔諸平赴海日。一刀空斫寧馨兒。遺恨一生只爭武。鐵衣拋却換緇衣。英雄易地雄豈退。倒騎如此不足怪。却怪一心向西方。十方何處莫佛界。

丙子七八月間大旱暑甚一雨之後頗有涼意 京寓中作

久旱苦炎熱。清涼何處求。京華稠密屋接屋。面牆面壁人似囚。況有萍蓬感。志氣何日酬。昨夜一雨至。涼風稍颺々。炎涼隨時有變更。慷慨早晚豈能休。醉來裁詩歌靜夜。吟聲一片颺於秋。

九月二日同小華橘華訪詩仙堂

衡門來叩白雲深。遺跡尙餘三尺琴。百戰功成身已退。赤松黃石是知音。功成何顧利名緣。淺水歌詞感老年。一卷道經三尺几。早將仙骨作詩仙。

同 登叡嶽

峻兮雲母阪。路滑踏曉雲。披艸棘。攀荆榛。細逕十里不遇人。豁澗忽認古佛窠。宏殿傑閣大似山。昇堂欲拜不見佛。落剝空看畫棟塵。爐頭無烟香火絕。壇上占棲颺鼠眠。陰風度。檐鐸寒。恍訝梵唄起。前林響斧斤。招樵試問是何寺。樵云延曆年中草創地。從來有稱山法師。暴威屢逆 皇

天意。廟堂有算豈偶然。今日荒涼天所棄。我聽此語忽歎歎。跋扈在僧佛焉知。僧皆非可惡。聖者固可推。想看當年傳教修戒律。維嶽降神陸續靈人出。靈人奉佛佛威光。佛無靈人隨亦亡。我欲問山靈叫不答。只聽滿山松杉怒號秋風長。

秋夜書感

萍迹颺搖寄異鄉。一裘一葛感流光。蕭疎樹上秋風動。徙倚梁頭落月長。抱志欲遊千萬里。掃愁聊醉兩三觴。欣然得意期將近。夢裏宵々渡大洋。

將發西京赴支那留別小華橘華琴水諸子

離思切。別淚咽。客中告別將斷絕。鴨水清。東山明。依々更有并州情。男子三十尙遠遊。從容何歲占居處。朝來拂袂秋風寒。萬里航海自此去。

舟抵上海

多年神遊久。今茲來此地。飄々如登仙。吾意何以譬。乘彼火輪船。疾馳

似生翅。忽辭日本洋。不見一山翠。天時無颶風。波自有順次。四顧眼界寬。眺望倦且睡。大炮一聲驚。舟人都呼至。整衣已上洋。猶是疑夢寐。

上海雜詩

也似新鶯喉舌澁。未能對客話寒暄。頃來聊慣兩三語。試喚車夫時一言。器店文房陸續開。展觀欲買或徘徊。笑吾言語未全辨。先喚一聲挈筆來。留滯秋風志未灰。家書久絕暗愁催。浦頭大炮一聲響。知是漁船吾國來。

送谷了然師歸朝

秋天目送入歸鴻。收錫明朝向大東。祖席也逢三五夜。別思杳々月明中。

遊花苑

英人家接佛人家。傍有瑤欄護異葩。朝去晚來舟不斷。一園併種五洲花。

送前參議副島公遊西湖

功成誰復伴烟霞。致仕欽君德望加。經歷扶桑看未足。優遊漢土興應賒。

巢雲居畔時停杖。放鶴亭邊好駐車。更有騷思搖不已。湖山到處筆生花。

寄懷谷了然師

一望天台雲杳茫。神仙應是待劉郎。知君夜半書窓夢。瀑布千尋入石梁。

滬上重陽作

優遊身迹寄遐方。一任秋風木葉黃。明歲不知何處在。滬城今日遇重陽。

記夢二首

清鴉聲裏曉眠殘。回首憂吾反哺難。昨夜床頭有奇事。分明故國夢平安。分明昨夜到鄉關。侍坐高堂笑語閒。電線誰言郵報速。不如萬里夢中還。

同遠藤白尾清原諸子乘火輪車到吳淞

卅里追奔疾似霆。遊人占坐倚窓櫺。舟帆遠岸看生白。樹杪前村已現青。誰以蒸烟運車轍。我知機巧有神靈。不須縮地當年術。直到吳淞酒未醒。

又

任他微雨未全收。乘火輪車儘小遊。三十里程來一瞬。吳淞隔岸在前頭。

火輪車中有一客小晤，下車欲渡吳江，共入船至吳淞，誘

予到家，掃榻喫茶，蓋海關之主吏而其姓唐號蘭生也。

豈料同車又共船。偶然小晤是因緣。堂頭引我舊知似。揮筆不妨酬一篇。引我堂頭且喚茶。相知今日是同車。談餘欲去問其號。一笑指他瓶裏花。

吳淞所見

滿江林立列帆檣。知是繁華小地方。忽有街頭人蟻集。喧々指我喚東洋。

歸途作

一醉呼車又就程。模糊遠樹雨將晴。去時稍熟來時景。也似人間舊識情。

得家書

昨夜燈花結。朝來知有喜。海外萬里得家書。緘封未披先拜跪。忽認二字題平安。中有告諭面晤似。讀來字々銘肺肝。慎哉飲食係生死。寒暄可防

禦。進退勿自是。我老無所爲。爾盍勉旃矣。維孝膝下音加餐。舉名後世亦孝耳。碌々終其身。莫以污姓氏。婆心固多多。不盡咫尺紙。一讀如割心。再讀似加捶。幾回卷又舒。感淚咽不止。仰首東望故國天。只見萬頃波濤起。阿爺之恩海水深。每思阿爺臨海水。

明治九年十二月三十一日在滬城作

太陽曆上歲云殫。建子稍爲周室看。客枕終年無疾病。鄉書萬里得平安。月沈蘇岸潮聲落。霜滿申江夜色寒。未有斯身涓滴報。聖朝愧我只加餐。卅年事業足辛酸。也把牛衣泣夜闌。畢竟人生知己少。眞成天下立功難。前途抱志身將老。遠客思家歲又殫。愁殺滬城今夕酒。蕭條獨酌伴燈殘。

明治十年一月一日作

屈指驚迎卅四年。看吾萍迹尙依然。一杯傾去醉情動。七字裁成詩思圓。言語稍將通楚越。壯遊遠欲及幽燕。今朝遙拜向何處。日出扶桑東海天。

兩歲淹留海外天。浮雲逝水忽然遷。星霜已閱年三十。家國遙望路八千。杯酒春生梅影動。旗章風度日光鮮。晚來一醉羈窻夢。也賀平安到膝前。

自上海歸長崎船中作

倦遊辭滬城。歸心急於箭。維時正嚴冬。人道颶風患。決志上汽船。慙慙別諸彥。更喜卜新晴。日影照海面。何料過百里。天容忽然變。風從東南來。潮勢如挑戰。船腹觸怒濤。宛似鼓與煽。煤烟舞回風。咫尺黯不見。此時神轉迷。誰復得寢宴。廉頗何能飯。王戎豈不眩。入夜風稍收。始覺免天譴。當年遣唐使。艱苦載史傳。

題蓮船師天台山萬年藤杖

天台巍巍逼斗牛。山上誰築梵王樓。智者曾住最上頭。多年三觀於是修。吾師飛錫去年遊。撥雲天台華頂寺住持名喜迎勸逗留。拈香一喝舞蛟蚪。大師之靈恍相浮。佛教興廢與誰謀。千載遇師志稍酬。此時滿山羣籟收。神光如月射

簾鈎。萬年有藤生巖幽。採之贈師祝萬秋。其長三尺筇杖侔。跋跬山壑儘自由。君不見吾師之壽與之儔。化盡中華四百州。

長崎

囂然此地是繁華。萬國商船日暮過。城郭帶山洋館秀。海潮通市石橋多。兒童亦解魯英語。娼妓全諳吳越歌。今日五洲一家似。幾條電線臥滄波。

寄懷白尾遠藤崖邊諸子在滬城次遠藤兄被贈韻

夢魂尚在滬城遊。孤枕驚醒燭影幽。杳々暮雲春樹思。依々蘇武李陵愁。知君月桂將攀折。笑我萍蓬任去留。別後幾回音信至。厚情一日是三秋。

春夜卽事

殘燈明滅照孤床。酒醒春宵却覺長。夢裏得詩如得璧。起來熟思又尋常。

贈恒庵岡田老國手

壬申遊姑蘇云

萬病逢君似解醒。折肱三世業全精。人望今日聞湖海。國手當年動滿清。

殊愛風流容後輩。不妨野調寄先生。曾遊話到寒山寺。聽盡隣鐘半夜聲。

瓊浦客舍題壁二首

芳艸萋々尙未歸。淮陰寄食滯天涯。遊因閱歲客衣敝。身在窮途詩句奇。
澹影春燈親枕簟。無聲夜雨濺簾帷。崎陽魚美酒還美。長鈇何曾歌五噫。
漫遊留滯海西邊。不顧家山負郭田。富貴陶朱我何敢。推敲賈島自相憐。
詩於客土得奇境。交在天涯逢好緣。看到梅花開且落。三旬容易一晌遷。

瓊浦雜詠

夜雨淒涼在海濱。飄零誰繫轉蓬身。梅花不解遠人恨。開遍枝南枝北春。
曾遊入夢夢回遲。起坐刪來嗜昔詩。萬里懷君出門去。望吳山上立多時。
西南街市枕江灣。東北人家接翠鬟。佳景教人弄文筆。峨嵋山對望吳山。
文筆峨嵋望吳皆山名在崎陽
地於我國最西偏。來往頻多航海船。街上時聽兒女語。兄遊滿蒙弟朝鮮。

繁華此地冠西海。韻士風人幾往還。應有劉郎成再會。神仙館秀是圓山。
紛々爭說漢唐琛。滿店成堆古色深。一塊雲根三尺竹。纔來東海值千金。
陸氏茶甌陶氏琴。店頭故物鬱成林。看來自感斯文喪。萬卷經書不抵金。
排字紛々入品評。日新新事記分明。以文會友如椽筆。一紙能收西海情。
以文社著西海新報

士人併說陰陽曆。二月春風雪尙飄。清客衣冠賽唐寺。今朝知是舊元朝。

十年二月十三日係支那曆丁丑正月一日
聖福崇福福濟數寺支那人所建俗云唐寺

赫々威靈各自誇。吾文彼武有光華。同明萬古共相照。菅相廟隣關老爺。

聖福寺有關羽祠傍崇菅公廟

霏々風雪灑前岑。料峭餘寒數日陰。知是明朝應有雨。夜來奇暖減重衾。
踏青取次趁春暄。諏訪祠邊艸色繁。一榻煮茶何處好。遊人絡繹入公園。
海南春色未全回。聞說風塵捲地來。中夜聽雞非我事。羈窻移燭看瓶梅。

時薩州有事
賊入肥後

前途漠々滿風塵。其奈淹留過數旬。吟咏也應忘客況。梅香柳色屬詩人。

客夜書感

夜雨憐芳艸。春風愛柳枝。醉情孤枕伴。客感一燈知。衣敝幸無疾。囊空惟有詩。家人應念我。歸夢趁天涯。

赴南豐途上作

理裝辭瓊浦。快船向馬關。立洋無激浪。晴波白鷗閒。筑海看已過。長山認翠鬟。明日轉征路。呼渡就前灣。大里古驛迹。小倉殘壘間。從此著杖履。羊腸幾回攀。頗與我鄉似。出山又入山。天邊油布岳。三月雪尙斑。豐州多奇景。不愁道路艱。宇佐拜神廟。偉哉不容姦。和氣公忠烈。拜跪淚潛々。別府與濱脇。溫泉療病瘰。況有丹釀在。頓忘大刀環。鴻爪詩聊記。雞肋愧吾頑。旅窻孤枕底。新句題又刪。

折齒歎

雖罹回祿災。祝融不傷身。雖遇風濤險。河伯不害人。豈料南豐路。雇車車顛仆。倉卒折齒牙。滿口熱血注。車夫忽愕然。膜拜頻乞憐。吾怒不能止。彼亦不忍鞭。欲語非故我。凹凸試哆々。欲食異舊時。齟齬飯粒墮。此時多淚痕。未酬慈親恩。今歲我卅四。齒牙半不存。惆悵憾何已。憾極翻自喜。從今意應舒。斷然無折齒。

妙正精舍席上呈大旨啓南賢嶺諸師

笑我單身到處輕。經年只遂遠遊情。才疎尙且耽詩句。書拙唯能記姓名。山勢望來如故國。地形閱處似新盟。南豐自古多賢哲。許否此中容後生。

謝誓雲兄惠花

折取庭花兩三枝。多情寄我慰羈思。窻紗深掩避風吹。愛護不教蝶蜂知。露重尙能玉臂支。香泔卽見雲髻垂。嬌容帶笑巧且奇。艷態如語濃又宜。

此夕對花把酒卮。香氣馥郁襲我肌。一醉欲睡花影隨。恍惚床頭伴仙姬。
我無山妻促畫眉。生死曾逢兩別離。況復頻年在天涯。三更夢冷孤枕欹。
夜雨綿々巴山悲。剪燭共話是何時。謝君割愛故相貽。依稀宛似有佳期。
殘夢膏騰醒來遲。起坐再復對芳姿。三竿紅日透簾帷。瓶花濯々影參差。

卽事

南華讀倦日方長。午睡醒來未夕陽。蝴蝶一雙飛不去。瓶花亂點滿風牀。

白杵客舍題壁

衣裳狼籍酒痕腥。笑我淹留客思輕。千紫萬紅春又晚。滿天風雨滯鼇城。

善法精舍席上示香石師

落花鶴村雨。新綠鼇城煙。相遇雖新識。晤言似舊緣。壁濕湘雲影。盤堆
吳膾鮮。醉話應徹曉。再會在何年。明朝分袂去。雲樹又各天。

讀蓮船上人八洲詩鈔

佛經與儒典。東播二千年。太子創業迹。聖德醇乎醇。大師學植瞻。弘法
窮真源。文質共彬彬。航海驚唐賢。中古戰塵起。天下武勝文。儒林不倡
儒。矛戟代史編。斯道皆屬佛。衣鉢併相傳。所以桑門輩。世執翰墨權。
就中真宗下。陸續多絕群。吾師生千載。資性道心堅。太子與大師。或恐
是前身。閱盡瞿曇教。八萬有四千。涉獵及經史。孝先腹便々。孫戶晝常
閉。達壁夜入禪。台教推智者。宋學壓伊川。末法斯道興。後世斯文振。
聖代出聖主。維時遇維新。吾師勃然起。往化支那民。却憶西來教。今日
自東遷。遂使海內外。羅拜仰見真。餘間作偈詩。豪爽捉青蓮。波瀾誰能
追。奇想降自天。長篇一千字。短句二十言。莫道彫蟲術。是亦濟度緣。

贈杏雨畫伯

畫手貴精神。一點不可忽。所以古之人。磊塊脫凡骨。世間鬻畫人似林。
一花一艸貪千金。塗鴉何論工與拙。覩然倨傲惑人心。豈有通靈逼真力。

叨求聲價意得得。小子鳴鼓可攻之。此輩畢竟吾黨賊。君不見南豐畫宗帆足翁。風韻豈與俗士同。適意自描又自樂。十日一山描未終。

又

藹藹杏花村。先生常閉戶。詩成神鬼驚。筆走雲烟舞。茶煙颺午風。石硯鳴春雨。庭邃占清幽。身閒如太古。不顧利與名。一笑只揮塵。

贈萬太翁

知君多積善。餘慶見家風。孫子應長富。芝蘭定幾叢。聲譽奇貨際。功業廢居中。一夜樓頭飲。豪談老益雄。

聞熊本賊兵潰走有此作

錦旗光動曉暎昇。赴軍壯士髮鬚聳。一身若鍊膽如斗。擊鼓驚々山川崩。借問賊軍誰爲魁。當年勤王曾策名。可惜淮陰遂謀反。功狗今日自將烹。鎮兵固守熊本城。維昔鬼將軍所營。聞道九州稱第一。堡障壁壘鬱峻嶒。

賊軍大呼來相攻。此時城中不敢響。忽聽萬雷劈地起。十里霹靂晝晦冥。前軍膽破前不得。鼠輩雖黠難飛騰。重圍只待糧食盡。郊外幾處築巢檜。皇天赫怒怒不止。忽遣六師爲遠征。陸驅山野虎狼走。海衝波濤鯨鯢驚。砲煙貫天天將焦。戰血濺地地亦腥。楚幕有烏忽潰散。一朝慰士賜仙醴。拔劍歌舞須盡醉。不妨卮酒一斗傾。君不見不日賊斃九州穩。凱歌聲爲擊壤聲。

書懷呈五岳上人

少壯嗜吟咏。風煙寫所思。徒裁句長短。宛似蔓艸滋。規之乏益友。質之欠良師。豈有律正變。不知烏雄雌。今茲遊南豐。偶侍木犀帷。授以幽奧旨。使人感慈悲。全篇豈容易。一字宜敲推。古人絕妙句。三年或得之。非有八斗才。勿學七步詩。上乘在凝神。神凝意乃隨。苦吟極溶鍊。須入漢唐籬。終得江山助。至奪造化奇。我聽此垂誡。赧然自忸怩。開口寧喋

々。低頭只唯々。冥搜非々想。枯坐獨支頤。面壁如入定。聳肩頻撚髭。
夜吟蟲相和。曉嘯月惟知。何當拈一花。果逢微笑時。

題古竹園

幽栖不與世人爭。聲價却嫌天下鳴。只許白雲生座榻。更看古竹掩窻楹。
一心畫裏占三昧。五字詩中築百城。尙記老劉曾在日。樓頭春酌待杯饋。
春酌劉先師所居樓名

投平川驛追懷劉石秋先師

千里來尋獨斷魂。未酬培養幾年恩。江湖誰復傳衣鉢。風雨蕭々綠芋村。
綠芋村莊先師之號

謁淡窻先生墓

遺蹤悲闕里。奠拜感斯文。傳鉢人如玉。拈香客似雲。德名垂四海。芳艸
遶孤墳。憂々寒溪水。猶疑絃誦聞。

訪夕田隱士不遇

石門敲不應。但聞松下風。低徊吟蘿徑。時逢採藥童。云師餐朝霞。在彼
白雲中。明日須踐約。勿負黃石公。不知授書否。再欲攀蒼穹。歸途迷洞
口。傍有圯橋通。踏雲下前谿。回眺山鬱葱。

題五岳師畫梅

詩情畫致澹生涯。一笑紛々俗客窺。誰料高僧面眞目。乾坤惟有老梅知。

題畫

不避風塵地。林間自有家。老僧心若水。長嘯倚梅花。
日暮得魚歸。妻兒曾未饑。千金狐貉貴。不及一簑衣。
斯心方避世。如與古人期。門外滄桑事。看爲一局碁。

訪棉里師

松門不鎖自蕭森。一任禪庭草色侵。幻夢早知人事變。風塵逾覺道心深。

雲收迹去時歸岫。鳥占棲來已入林。枯坐聳肩吟骨瘦。只看涼月照溪溇。

謝棉里師惠酒

枯坐無由遣客魂。呻吟長日倚茅軒。自非白社遠公賜。安得青州從事恩。一酌身時消感慨。滿胸氣忽窄乾坤。不才何以酬情誼。醉裏狂吟寫數言。

偶感二首

半生幾度遇憂危。富貴浮雲只自知。破產昨曾辭故國。打包今寄在天涯。華胥入夢春眠際。玉版參禪晚酌時。身未出家心奉佛。飄飄形影似沙彌。鴻爪留詩亦滿囊。休言吟咏不成章。誰憐窮客離親舍。自笑清遊走外洋。世事百年皆畫餅。功名一枕是黃梁。西羈東旅身無定。遮莫傍人喚做狂。

長福寺寓中作

正是天涯淪落餘。寄居到處賦禪居。殘香燼去爐無火。午睡醒來手有書。志氣猶堪趁鴻鵠。詩情未敢脫笋蔬。依誰欲問三乘事。也覺塵心已解除。

將發日田赴戶次、聞賊兵自三重嶺入白杵、而妙正寺亦爲

鎮兵陣營云、五岳上人憐予借以水莊、恩遇極厚時大暑如

燬留寓累日、賦此鳴謝、三首、

何事風塵污白雲。貔貅聞說入祗園。夏山忽變一朝赤。不獨杜鵑啼血痕。遠公憐我阻兵塵。恩遇由來感宿因。苦熱窮途行旅客。清涼世界作閑人。俯看流水仰看山。身在支公銷夏灣。半世醒來塵土夢。忘機且伴白鷗閒。

日田客夜

子規何事數聲呼。東望鄉山萬里餘。此夜斷腸人不寢。一燈風雨寫家書。

濱脇浴湯作

蒸氣傍岸生。溫泉湧靈液。攀烟接海風。沸々和潮汐。浴沂四時宜。來往人絡繹。有樓皆捲簾。無家不延客。歌聲驚我眠。酒氣紛隣席。莫論我爲我。裸裎雜袒裼。多病啻茂陵。百端苦疾疫。或有嘆僂僂。何敢笑跛躄。

可憐折臂翁。說出當年役。又憐琵琶女。失眠無一隻。三年艾不治。七年痼猶劇。一朝試浴來。俄然得安息。吾亦遊斯中。欲養烟霞癖。

將發南豐再航支那留別蓮船上人

萬里遠離親。三年故侍君。今朝忽告別。警咳不可聞。難忍去并州。心緒亂紛々。再謁雖有約。豈啻隔齊秦。願君疾全愈。共排華嶽雲。

耶馬溪途上

奇景又奇景。人行畫圖中。山皆出意表。石盡奪化工。一水流其際。卅里響淙々。酒旗穿翠竹。梵閣隔蒼松。崖肩雲路斷。巖腹隧道通。此境鳴天下。先鞭有賴翁。我不學丹青。粉本難繼功。應接猶未已。歸禽噪暮風。前村投宿處。雲煙逼簾櫳。

筑後途上

梅雨陰晴際。蒸々暑若焦。樹稀沙路遠。野潤驛亭遙。亂後人心猾。霖餘

雲意驕。那邊宜小憩。孤店隔長橋。

再航支那

恨我平生志未酬。葉如身世任漂流。風帆不向家鄉去。重作波濤萬里遊。

申江買舟遊龍華寺

柳岸蘆洲水路通。輕航一片趁涼風。不須指點煩舟子。七級浮圖入望中。

也是園觀蓮

逃熱來園樹。觀蓮立水潯。花稱君子意。境愜古人心。弄扇畫橋畔。呼茶涼閣陰。經營誰所創。也是促吾吟。

送神守教師歸朝

空觀尾
張人

佛教創印度。于今三千年。東來及禹域。傳燈有聖賢。本朝亦傳焉。弘教道愈尊。其法無盡藏。隨時又隨緣。吾祖大慧眼。諄々諭其真。雖修萬行善。不如一心專。至誠念佛業。其德若源泉。葷腥渠何厭。酒肉豈其捐。

妻室好可聘。子孫故連綿。王公可成佛。奴隸可托蓮。併說仁與義。使人不亂倫。請看蒙化處。君君而臣臣。佛慈及十方。我教今西遷。異邦誰不仰。俯聽肩接肩。師昨奉命至。航海化人民。說經推善導。談論崇曇鸞。餘暇或飛錫。遊踪入詩篇。西湖楊柳裊。松江鱸魚鮮。今朝欲歸朝。惜別淚潸然。老幼攀車轅。也似慕寇恂。我亦不堪情。聊贈詩數言。不才勿相咎。書以報佛恩。

書感

蕭寂復蕭寂。誰慰此夜情。星沒亂雲走。月沈怒濤鳴。未酬平生志。要求身後名。詩才固駑拙。敢道鬼神驚。愀然無知己。孤吟坐五更。嘆息重嘆息。笑未學洋書。自顧無智識。瞑坐惟愁予。物理不窮搜。爭得窺大虛。請看少年子。學成意亦舒。吾盍學猿鶴。歸守舊田廬。

放言二首

半生寄迹客裏天。無二頃田。無一囊錢。汝何爲者謝世緣。形影可憐。飄然蕭然。笑而不答我意全。娛樂風煙。嘯傲坤乾。酣醉豪歌興欲顛。爲詩中禪。爲酒中仙。百年真是夢中身。泉石可親。煙霞可親。吟醉只願了宿因。送夕迎晨。維秋維春。不求富貴不愁貧。斷彼俗塵。養我精神。仰看天上月一輪。照了古人。照了今人。

花園納涼聽泰西人奏樂

鐵柵圍繞護花園。奇卉異草香可餐。此是洋客遊步地。園傍黃浦接潮痕。風生波面涼如灑。黃昏趁涼人下馬。珠履玉佩響鏘然。移床移榻隨意坐。硝燈光徹似晝明。滿地幻出不夜城。忽聞一陣鼓笛響。西人今夜奏笙簧。未知音律諧雅樂。正變何敢分清濁。只覺錯雜入耳來。急管琤々如霹靂。夜深燈殘曲又終。波心月印羣籟空。吾聞彼樂感不已。可憐彼亦知宮徵。

奇貨射利不止貪。衣食屋宅只盡美。君不見中華今日鄭聲多。街上爭倡侏
離歌。雅頌絃歌人識少。韶武之音無幾何。遂使薄俗趨夷狄。邪說橫行添
勃歎。禮乎欲廢樂乎衰。聖賢若生定憂感。吾感此事獨未回。孤影蕭寂尙
低徊。忽地驚聞悲風起。怒潮拍岸月痕摧。

雜言二首

鷄鳴狗吠輩。君子所不取。雖然臨其機。也應備部伍。苟有一技者。豈敢
云庸孺。人各有所長。棄短足恃怙。所以古之人。待士三吐哺。
人各有所短。人各有所長。取短用其人。其人却快々。取長用其人。其人
隨顯敝。擇之在長短。宜視如指掌。韓非故有言。所用非所養。

滬城寓樓中元對月

當此中元夜。孤情欲訴誰。人雖留海外。月不隔天涯。簾冷蟲聲逼。衣單
露氣知。茫茫鄉國遠。萬里動愁思。

送遠藤師兄之北京

君勤囊螢業。篤志非吾儔。吾耽彫蟲術。踈懶非君流。憶昨來滬上。已換
一葛裘。分燈俱讀史。共被同臥樓。視吾宛如弟。視君與兄侔。餘桃付君
食。新瓜爲吾投。友愛非一夕。離合情何休。拔擢喜君喜。颺落憂吾憂。
今朝忽送別。維時正清秋。振衣向幽燕。平生志應酬。君任在弘教。何妨
赴遐陬。吾筆雖枯禿。一言聊相酬。鞞擊肩摩地。教化宜慎修。聖教固熾
昌。邪說亦匹述。回々欺頑愚。猶太惑王侯。天主紛釋老。耶穌亂孔周。
况復佛門裏。分派如仇讎。袈裟青黃異。喇嘛教曰黃衣派自
餘佛教曰青衣派各自競玄幽。君今
雄飛去。應有帷幄籌。能使真宗真。喚醒五大洲。

呈自笑觀師

越前人岳
崎正純

飲君事業固雄恢。嘯傲常斟酒一杯。燕雀寧知鴻鵠志。鸞鳩豈料大鵬材。
拈花迦葉道先悟。見月藥山雲忽開。世上毀譽都不顧。終年談笑自咍々。

贈孫士希先生

厚情容我故相憐。風貌依稀似昔賢。雖愧蒹葭依玉樹。轉知文字有因緣。散人豈願衣冠貴。高士自持風月權。講帳多年垂教久。一朝應有得三鱣。

秋夜不寢

殘宵再難寢。鄉夢忽然回。蟲與千愁聚。秋兼一雨來。後生雖可畏。宿志未全灰。何物爲知己。乾坤只酒杯。

讀史

吳國一敵國。西施忽傾之。咄々大丈夫。輸此一蛾眉。范蠡也何意。同泛湖上隨。或謂無他意。覆轍越亦危。或謂恐覆轍。盍戮絕世姿。爲國絕禍水。永使後世知。吾謂休喋々。其理固可推。世豈一夫差。而啻一西施。諸葛在隴畝。耕耨養其躬。自雖比管樂。未知爲臥龍。一自出天下。孰不仰神功。前後出師表。萬古貫誠忠。驚喝生司馬。一死吾事終。曩無徐庶

荐。徒老草廬中。

毛遂客平原。三年未有聞。一朝處囊中。脫穎見絕羣。及說楚王前。利害決一言。其徒何足數。碌々十九人。苟不用此士。焉得防秦軍。爲告養士者。莫以皮相論。

滬上雜詠

春申浦上鬪嬉春。服飾冠纓亦競新。不啻當年珠履客。滿街繚亂五洲人。女兒移屣步皆慵。雙腳纖々細似弓。莫趁晚晴城外去。阿郎鞭馬疾於風。湖心亭畔喚新茶。也是名園中賞藕花。今日還無和氏泣。千金爭鬻璞人家。五洲船舶滿黃灣。奇貨爭開市陌間。四顧凝眸渺無際。城中兒女不知山。手裏團々月樣涼。冰紈弄去墨痕香。溪山淡寫胡公壽。花卉濃描張子祥。樓々引客捲窻紗。寶善街頭燭似花。陽羨武彝猶未喫。月前先試雨前茶。

次自笑觀上人滬城寓居韻

連臺高接漢。洋館屹如城。有衽成帷幕。無山入戶楹。車塵馬狼籍。人海市縱橫。中寓脫凡客。秋懷描得清。

丁丑中秋同毛對山孫藹人錢子琴馮問琴任鈞溪吳鞠潭蔣文

虎諸先生會于湖心亭此夜無月

湖心擎出一高亭。人趁佳期倚畫櫺。不憾今宵缺明月。只欣此會聚文星。獻酬隨意酒無罰。論說解頤詩有靈。直到三更難作舞。淡雲纔破又冥冥。

訪毛對山先生

半生遠隔海西東。只聽詞壇譽望隆。文字因緣終不盡。今朝一榻拜清風。

丁丑舊重陽鴻運樓留別滬城諸先生

滿天風雨又重陽。好接諸賢寬客腸。想像松江鱸膾美。曾經申浦菊花香。小人有父罹微疾。遠客無情辭異鄉。雖有再遊他日約。可堪此夕把離觴。

丁丑除夕書感

今年今夜殫。回憶今年事。今年第一月。在彼禹貢地。一旦欲歸朝。萬里航海至。揚帆遇颶風。殆爲鰐魚餌。須臾脫九死。也感天公賜。二月滯崎陽。賞莢看過二。西陬猶風塵。其勢不可避。偉哉天兵威。暴矣賊軍肆。三月赴南豐。雇車誤顛墜。傷頰及折齒。疼痛苦寤寐。四月五月際。療養脫塵累。時訊畫博居。或寓詩僧寺。六月重理裝。沿途弄山翠。奇景耶馬溪。平遠又幽邃。前筑屐不遍。後肥遊不遂。再航遊上洋。七月火雲熾。黃耳猶識面。狎馴不敢忌。況有舊知人。寒暄繼交誼。論談筆相馳。應酬書互寄。平生學踈慵。逢迎多慚愧。中秋月娟々。重陽菊蕙々。食鱸添客懷。聞雁入鄉思。十月促告歸。離筵酒聊備。或餞筆數枝。或贈詩五字。西東海雖隔。離合情何異。握手約後遊。拂衣別各位。歸朝至西京。遊踪說人示。維時山色丹。樹々帶霜意。匆忙歸故鄉。吾心喜如醉。先拜阿爺顏。也想老萊戲。稚子見我驚。不知真乎僞。老妻迎我悲。灑盡經年淚。

鄉友相賀來。芋栗各有饋。却嘆吾歸省。豈以衣錦比。萍蓬徒奔趨。所酬此云匱。逝水感光陰。學業久已棄。悠悠無限情。耿耿獨不睡。把筆記漫遊。剪盡燈一穗。

戊寅新年初三、邀碧桃伯父、滌雪仲父、榮松叔父及清所、士寵之諸侄孫。共飲於阿父堂中。

伯父矍鑠岸烏巾。日課道書鍊精神。起死回生術何仁。鄉閭相推稱善人。今年壽筵將開陳。已過古稀初度辰。仲父六十六秩春。奇偉談笑鬢如銀。阿父平生慕隱倫。悠然高枕避世塵。奉佛夙悟宿世因。六十加二樂天真。叔父嘗盡世苦辛。朝昏啣杯到六旬。今夜掃榻聊勸醇。侄孫獻壽酒幾巡。伯仲叔父皆諄々。猷酬益多談益親。也希嘉會應達晨。不妨笑語驚四隣。只憾豹也負親姻。離居幾年隔胡秦。自今年々采蘋蘋。斯會長此薦時新。寄懷子琴錢先生、次其送別韻。

告別辭黃浦。離居各一方。交情澹於水。詩思皎如霜。朝々雲樹遠。夜々夢魂忙。誦來疇昔句。親炙不能忘。

病中作

絕無剝啄到柴荆。況復三旬謝麴生。人在病中添感慨。友於窮處見交情。
春陰黯淡湘簾暗。夜雨蕭條藥鼎鳴。一片壯心猶未死。任他薄俗例相輕。

寒林讀書圖

林下誰哉早結廬。終年埋首老莊書。風前聽盡蕭々葉。自悟人情逐日疎。
春晴散策、得迂字。

瓢酒不妨重。提携互相扶。思詩步皆緩。避市路多迂。風外看鳶颺。雲邊
聽雀呼。行厨何處設。芳草似團蒲。

喜雨

忽看峰雲黑。滂沱雨快哉。暑如降將伏。風若援兵來。甌窰昨爭水。比隣
今把杯。豈唯歡意溢。也復作詩媒。

啣冰

爽快忽疑在廣寒。何要甘露與仙丹。全身毒熱除秦酷。滿肚清涼遇漢寬。

嚼去琤琤鳴玉齒。碎來宛轉走銀盤。浮瓜沈李能供客。不及瓊漿一掬餐。

竹窻聞雨

吟燈影冷欲殘宵。客去眠醒酒又消。枕上繙來劍南集。一簾疎竹雨蕭々。

秋夜不寢

風々還雨々。蕭寂九秋深。老壁燈光閃。殘爐香靄沈。愁人幾欹枕。墜葉
不歸林。長夜終難寐。誰能慰此心。

寒江晚歸

不見老漁來下罾。滿江日暮凍爲冰。任他深雪埋歸路。聽盡沙禽待月昇。

追憶前遊

去年過前豐。得遊耶馬溪。兩面山爭出。一道水亦隨。山水俱平遠。曲々
見茅茨。疎柳藏漁戶。午雞響樵扉。佳境有佳稱。無由題惡詩。我鄉多山
水。世人孰不知。其山卽峻嶽。其水必深涯。老樹非不聳。瀑布非不飛。

譬之粗暴士。遂乏溫藉姿。始知高士行。不在險與奇。

戊寅歲晚、訪西塘上人於京都高倉寓、話舊、

話到申江舊別離。偶然邂逅又凄悲。書中英傑三餘友。世上滄桑一局碁。飛雪欲來風更誘。亂雲難定月相隨。寒天漠々歲云暮。只待梅花開有時。

訪自笑觀上人寓

慘澹滬城別。屈指忽莽年。今夕此相遇。情意共纏綿。欣君無微恙。重續未了緣。詩奇頤忽解。談熟膝頻前。法蘭入漢日。教化稱高賢。遊戲亦驚俗。酬和筆如椽。不願苦死留。收錫東海還。名利世人濁。獨嘯自哈然。一字推敲外。數杯談笑間。後身吟島佛。前身醉謫仙。

己卯新年、西京客寓二首。

寒梅影裏曉蕭然。旅壁今年又換年。破硯枯毫存故態。青蔬綠酒獨新鮮。煙霞於我自成疾。富貴任他爭執鞭。轉々通街車馬響。閑人安臥日高眠。

食走衣奔舊宿因。打包僧或我前身。萍踪蘇岸送殘歲。鴻爪鳧川逢首春。薄俗何嫌喚狂客。聖朝堪愧爲閑人。梅花應笑才華拙。詩句年々只腐陳。

寓居書懷

不向磻溪垂釣綸。江湖尙作轉蓬身。絕交稍避世間事。知己最多方外人。飲水讀書將換骨。嚼梅忍凍未言貧。優遊百歲吾情足。文字之緣泉石因。

北野

爽然朝雨歇。恰遇訪春期。萬樹梅花國。千年耆相祠。寬魂天亦哭。靈跡世皆知。雜沓人如織。紅塵滿玉墀。

金閣寺

遙訪名園勝。湖池暮景深。人皆爲白骨。臺尙說黃金。鐘響隔疎櫺。茶煙生茂林。莫談興蹶事。孤月照波心。

寓居雜吟二首

歌吹何邊起。樓々臨鴨江。銀盤鱗甲列。長袖趙楊雙。酒氣紛盈席。春寒不入窓。翻憐讀書客。苦學對殘缸。天涯隨內子。起臥似家鄉。須盡新年酒。莫愁明日糧。梅開詩忽熟。雪歇月添光。人世總如夢。一拋行與藏。

飲酒五首

杜康能解事。製釀精且醇。晉時清談輩。憑君樂天真。唐宋善詩客。憑君見風神。吾生雖碌々。生平尤相親。典衣供晚酌。自道君忠臣。吾詩垂百篇。吾酒須一斗。醉時乃裁詩。醒時亦呼酒。無暇接世人。萬事任荆婦。起臥自陶然。絕無外物誘。富貴又何求。天地如吾有。舉杯山吐月。洗杯風滿樓。若令無此酒。何以不悠悠。所以無賢愚。宴席必獻酬。子美亦有語。一酌散千愁。醉來曲肱睡。夢繞小瀛洲。欲令江湖驚。欲令志氣生。拊脾忽長嘆。欲訴不平鳴。起坐獨斟酒。須臾

巨觥傾。須買千日醉。豈妨五斗醒。不顧眼前事。那問身後名。甲曰勿飲酒。是能傷其人。乙曰勿禁酒。是能養其神。試思二子語。其意皆諄々。沈湎徒耽者。倨傲面或曠。微醺相嗜者。陶然眉乍伸。有慰一日勞。聊堪忘赤貧。有爲長夜飲。又害千金身。一斗李太白。一石劉伯倫。陶母窃截髮。靖節自漉巾。更有畢吏部。盜飲臥比鄰。好之不失德。惡之不違仁。子曰勿及亂。此語可書紳。

梅花絕句 庚辰稿

太史通仙趣各宜。傲羣俗客費心思。橫斜疎影屬陳套。高士美人爭入詩。莫怪先生閉戶稀。探梅日夕度溪涯。空山流水無人處。逢著橫斜玉幾枝。

寄意二章

君平不避世。誰復稱君平。孔明不出廬。誰復稱孔明。進取與卷懷。隨時有權衡。奪之不可奪。爭之不可爭。曳尾有遊龜。遷喬有啼鶯。三寸吾舌

在。不復說縱橫。

西施傳其美。無鹽傳其醜。醜美雖不同。千古俱不朽。容貌猶如斯。心宜慎所守。人生有賢愚。物理有薄厚。無寧爲雞口。當勿爲牛後。百事無不然。低首呻吟久。

晚步

晚步尋詩意思閑。桑陰行盡入田間。鴉群沒處雲歸岫。人影生時月上山。

夏日溪居

葺得溪頭屋數椽。此間銷夏足幽眠。讀書翠竹深林裡。濯足蘋花淺水邊。身世看來直畫餅。利名悟處卽忘筌。短篙晚棹煙波去。滿岸清風月在天。

梅雨新晴坐月

苦雨連旬暗戶楹。今宵偏喜遇新晴。人於蘆葦簾中坐。月自蒲萄架上生。濕散時宜拂書帙。興來好欲喚杯觥。閑吟不覺過分夜。移宿栖禽忽一聲。

源三位墓在濃州蓮華寺七百年忌辰徵懷古詩因賦

家運稍衰尙未窮。六孫王後有斯公。翼奉親王舉義旅。嬰鑠據鞍老英雄。天曙如何誤夜攻。菟川一散不逢功。暗射當年落怪鳥。藻詞今日慕遺風。恰似陳陟唱群起。乃有王氣振沛豐。他日平宗皆覆滅。知君九原幽憤空。蕭寺依然苔墳古。子規叫雲月如弓。

書碧桃伯父岳東漫遊稿後

七十羨君强健加。飄然提筆向天涯。酒杯吊古闕兵地。停杖尋靈參佛家。岳色海光皆畫料。鶯聲鶻語盡詩葩。一部讀來生爽快。雲煙鬱勃逼窓紗。

春日雜感 辛巳稿

閑居養疾銷柴門。謝客聊逃塵事煩。垂柳於風如有意。落花與雨似無恩。交情乃見貴還賤。南北也兮寒又暄。摘我園蔬斟我酒。陶然一醉自忘言。宿雪初融思未融。微吟擁膝對春風。愛憎自古稱彌子。禍福於今說塞翁。

鳥向天呼如告帝。筆穿土出欲書空。回看人世千端事。都在邯鄲一夢中。
曉鴉啼過又昏鴉。人事匆忙奈逝槎。月若常圓誰賞月。花如不落孰稱花。
休文病骨年年瘦。杜牧鬢絲日日加。舊侶算來多謝世。沈吟倚檻夕陽斜。

落花有感

昨夜聽雨聲。枕頭夢魂惡。起來倚闌干。落花滿山郭。聲老鶯舌悲。影瘦蝶衣薄。回首人間事。宛同花開落。感此不能休。餞春時一酌。紛々花點杯。陣々風拂幕。奉皇覓神仙。海上雲相隔。漢帝擊銅人。掌上露亦涸。世無不老方。豈有長生藥。

咏史

子弟八千今已空。一人何面返江東。秦王降死懷王弒。怪底鴻門縱沛公。
滿朝諫諍有名賢。却怪歌謠天下傳。斌媚一人除不得。曠宮怨女放三千。
沙丘矯命賜扶蘇。從此秦家失霸圖。萬里長城無所用。蕭牆胎禍已生胡。

楮幣歌

楮幣楮幣汝既非白水真人。亦非孔方兄與銅神。天下四方人爭聘。怪汝繼富不周貧。十萬纏得腰間輕。擲地無復金石聲。毛穎一畫汝乃貴。生殺權歸楮先生。但逢蠹蝕體分裂。或遇祝融身焚滅。嗚吁傷哉福祿榮寵忽諸亡。不特汝亡其奈斯民失生活。

養蠶歌

東畦西畝採桑急。笠檐雨滴簞袂濕。家々婦女不得休。豈信君王事出遊。
蓬頭不梳面如墨。旬餘晝餐併朝食。三眠蠶起桑無多。桑少囊空可如何。
絲價近年占勢利。桑樹亦比桂林貴。可憐繭成糸上機。織爲他人嫁時衣。

壬午新年作

迎歲家々笑語饒。東隣西比喜逢遭。盆中生瑞草稱福。架上兆豐是花饒。
就學長兒誦論語。柔拳少女試揮毫。多年猶未披蓑去。愧我江湖志已撓。

雜吟

衡門常不鎖。隨意養吟身。世事雖爲累。詩書可樂貧。梅開非陋屋。客到悉閑人。對酌酒將盡。呼童時乞隣。

西行望富岳圖

出家何問大刀環。托跡江湖雲水間。猶有風懷除未了。多時留腳望名山。

五月念日出鄉作

江湖萍跡笑吾狂。歸臥三年守草堂。何省不如歸去勸。杜鵑時節出家鄉。

觀吳陽翁所藏晉王右軍書

壬午之歲入越中。再遇吳陽岡田翁。翁示右軍書一軸。龍翔鳳舞座生風。初見心疑真耶贗。良久瞠目驚勁雄。翁素有好古之癖。斯寶知授自天公。君不見流俗爭求書畫幅。元僞明質鬱成叢。千金購來觚不觚。玩物喪志世皆同。畢竟爲名與利耳。腹無文字眼朦朧。吾觀斯書重有感。千秋何自留

神蹤。聞說愛親覺羅氏。僅々數字極尊崇。寧知六十有二字。却爲我翁傳日東。

贈岡田吳陽翁

再逢欣有緣。雲樹幾經年。階砌芝蘭秀。門牆庠塾連。三杯推艸聖。一斗賽詩仙。來質斯文奧。吾心已豁然。

訪妙樂寺甘泉上人

高僧栖隱處。卜在水之東。照案立山雪。捲簾平野風。日長香篆靜。境豁道心雄。斯裏真離垢。何論問色空。

次吳陽翁溪上醉吟韻

茫茫雲水際。泛宅隔塵區。把杯坐蓬底。閑看峯巒趨。斯中生涯足。蓑笠代簪裾。

何處不樂土。何處不苦途。畢竟苦與樂。須知皆在吾。欸乃數聲動。塵機

都欲虛。

心有所覺悟。隨境可歡娛。嚶々出谷鳥。泮泮躍淵魚。人生百年夢。天地一蘆盧。

身是麋鹿似。心則鷗鷺如。匏尊酒勸醉。清溪魚可漁。下舟時徒倚。沙際落照初。

山水天然趣。倪黃不能圖。扁舟忘日晚。溯洄興有餘。暮雲歸洞口。初月生澗隅。

金澤客次訪九山杏翁

入門通名刺。乞謁今老彭。多年慕風來。是日接款誠。深藏經世畧。獨恣好古情。文章追大雅。詩律繼正聲。論談極幽奧。教誨誘後生。疑義忽氷解。渙然胸宇清。

林泉讀書

豈知城市熱。況乃日如年。幽逕通書屋。深林響石泉。吾心若恬澹。何處不安便。靜坐焚香讀。一經道德篇。

咏松、賀船坂氏祖母七十、倣唐張南史體、

松。松傲霜嘯風。清陰合。翠影濃。脫却塵俗。長在山中。盤根經年大。蒼蓋凌雲重。不受人世寵辱。不比花卉嬌紅。期君仙姿無彊壽。與此不老松樹同。

秋日山居四首以題字爲韻

茅廬無長物。山色入小樓。手中書一卷。此外復何求。況乃食不乏。魚肥滿澗秋。

採菊餐落英。拾栗喫秋實。適意時一吟。此我養生術。心事自悠悠。長於長夏日。

朝看岫雲起。暮看林鳥還。林鳥與岫雲。相伴秋更閒。豈唯身避世。夢亦

不出山。

曲肱又飲水。起臥樂有餘。不聞浮世事。只讀古人書。策々踏林鹿。疑客訪吾居。

冬曉二首以題字爲韻

長夜睡易足。起俟五更鐘。童子猶勦々。一枕夢方濃。踏霜拾薪去。聊欲禦三冬。

叩斷溪寺鐘。啼破叢樹鳥。吾亦出柴扉。四望白皎々。未印行客痕。霜滿板橋曉。

雪中探梅發未稿

輕風微雪灑烏紗。特々探春野水涯。多病畏寒常閉戶。今朝一出爲梅花。

春晴散步限西東韻

村々雪半融。吟杖伴書童。鶯舌猶如訥。梅唇未放紅。思詩擇平淡。分韻

限西東。行樂從今始。溪山趁好風。

菅 廟

朝野都尊奉。兒童亦仰神。梅花含正氣。遺愛幾千春。

筆 頭 菜

不借蒙恬手。天然造化工。尖々方破土。蟲々欲書空。形小孟宗異。名傳毛穎同。詞人宜充饌。文字滿腔中。

移 竹

人各有嗜好。物各有滋育。林逋之梅屈平蘭。濂溪之蓮淵明菊。吾癖偶同王子猷。只愛瀟湘數竿竹。一掃蕪艸與雜花。滿林清風聞夏玉。從是時參玉版師。不嫌盤餐食無肉。

夏日溪居

葺得溪頭屋數椽。此間銷夏足幽眠。讀書翠竹深林裏。濯足蘋花淺水邊。

身世看來真畫餅。利名悟處卽忘筌。短篙晚棹烟波去。滿岸清風月在天。

子陵釣臺圖

文叔當年是故人。殷勤物色到溪灘。一宵帝腹加雙腳。惹得釣臺高枕安。

漂母飯信圖

骨相蕭然未遇時。英雄本領世誰知。老嫗却是不望報。堪笑漢王推食遲。

咏史

春秋以下此人存。殉國誠忠伯仲間。先死後生皆節義。疊山何必讓文山。

朝衡望月圖

秋風渺々鯨海深。此夕偏起故鄉心。遙望三笠山上月。斷腸賦得一篇吟。
千秋人爭傳絕調。王李之輩賡酬妙。無奈風濤阻歸期。孤帆萬里滯天涯。
兩朝佩印紛々議。忠魂惟有月明知。

癸未九月大谷大教正巡化于飛州

今歲何年大有年。況逢法駕結因緣。仁風能及禽蟲化。甘雨偏霑草木鮮。
德與天恩布朝野。行兼祖業遍山川。知他諸教將湮滅。獨見真宗度億千。

秋日遊山寺

三兩曳筇杖。後先呼互磨。觀楓攀石徑。乞菊叩山僧。得意詩猶未。偷閑
遊已曾。秋林夕陽好。貪景曲欄凭。

題畫

石徑行將盡。白雲開復遮。忽聽茶臼響。知是有人家。

遊壽樂寺

遙看黃葉樹。來叩白雲扃。境與市聲遠。心兼池水醒。城空國司迹。寺祭
藥王靈。欲問興亡事。前山暮靄青。

閑雲

閑雲非有意。閑雲本無心。朝乃出岫暮歸林。垂天一片。何求定住。忽地

飄搖。寧事升沈。嗚呼世上輕進浮躁輩。那知閑雲變幻深。

殘菊和小華韻

故人無訪過重陽。籬畔蕭條三徑荒。不許老蜂殘蝶到。瓶中幾日護秋香。

暮秋自高山迂路訪霜村萬竹庵

轉路迂歸杖。徐行詩思繁。秋風度長嶺。落日下霜村。蹊吼怪人犬。林喧爭果猿。來尋阿師宅。萬竹掩柴門。

甲申新年作

四十成何事。無聞亦晏然。鳥聲醒宿夢。旭影入新年。聖世文明遍。僻陬庠序連。兒童皆識字。賀頌比隣傳。

春初拉諸子散步

放課恰新晴。同遊皆塾生。早梅狐腋白。殘雪豹斑明。不問停筇處。何妨信履行。讀碑思孟德。叱石想初平。路偶遇牛避。蓋因逢友傾。遙村紙鳶

影。近寺木魚聲。藉草爲茵蓐。臨流洗盞觥。團欒無主客。各自入談評。或競三騶辯。還期七步成。詩軍聊奮鬪。舌戰亦縱橫。餘波多逸興。意匠互經營。綿蕪擬爲禮。囊沙將習兵。不知諸子弟。他日孰豪英。

春晚書懷

人事匆匆百感生。醉醒容易過清明。將催花處雨無限。更掃柳時風有情。詩債難收管城子。酒逋未償孔方兄。笑吾已擲青雲志。頭上空添白幾莖。

梅雨新晴出門

久矣衡門閉。吟遊意勃然。如期曳藜日。恰及出梅天。聽瀑熱腸醒。看雲詩思圓。都忘浮世事。長嘯坐山巔。

偶感次霞岳韻

飽看今世事。頻感古人蹤。學素非無志。身終奈放慵。搖々風戛竹。灑々月穿松。心思忽舒暢。斟來酒一鍾。

讀維摩經請教於小栗栖蓮舶師

遊戲具神通。大哉維摩詰。方丈臥一牀。小哉維摩室。小大即方便。誰能知其術。菩薩又聲聞。不堪問彼疾。獨任有文珠。真是不世出。碌々高弟子。相隨只羅列。就中舍利弗。智慧稱第一。意思彼早悟。論窮口如訥。却令天女來。雨華試優劣。倏忽女轉男。神變爲所屈。怪此小室中。何處能容膝。豈圖求他方。獅子座方設。又看化菩薩。遙乞香積飯。一飯養萬僧。香味甜於蜜。靈妙不可測。問答稍將畢。掌上撐大衆。相送共詣佛。佛亦放光明。照徹如日月。現生妙喜國。爲演廣長舌。一讀疑心消。再讀悟道發。芥子內須彌。海水入毛髮。

蓮舶云、囊括一經無復遺漏。玄豹君明治九年與余遊上海、十年春余得眩暈之症、君送到豐後、尋再入上海、同年冬君亦病歸、爾後與君不見者七年矣、十七年余在京得腦痛之病、臥者數日、君惠然來訪、余之喜不可支也、又出此稿似余、句々濃厚謹嚴、絕無時調浮薄之習、吟而又吟、使余抃舞忘其病、可謂越人起甕之妙什矣、敬服々々。明治十七年五月廿五日。

芳野二首

南朝遺迹吊斜曛。不憾斯遊花落紛。萬樹綠陰殘雨裏。子規啼度夏山雲。
忠節一家青出藍。芻蕘今日尙能諳。鏃尖遺詠依然在。如意堂前吊小楠。

談武峰

百花落盡鳥聲閑。路入重陰綠樹間。今日無人知武事。行歌旅客上談山。

大和途上

芍藥又當歸。春風拂客衣。有家皆瀑布。無女不鳴機。野澗數牛臥。天空孤鷺飛。舊都知己近。望裏笠山微。

甲申秋日同桐村霞橋再上安房山、寄懷生田石泉、去年與石泉同上、時有今年再遊之約、故及。

安房之嶺踏崔嵬。絕頂登臨興快哉。群岳爭高爲隊伍。斷雲欲散又縈回。雖欣踐我再遊約。轉恨欠君同伴來。石上去年溫酒處。空看紅葉滿林堆。

呈鱸松塘夫子

會面今雖始。盛名耳久聞。交情澹如水。詩味爽於雲。古道能容我。新知得侍君。心機總拋擲。不顧世塵紛。

又

險棧危橋馬虺隤。千峰萬壑白雲堆。君遊自異尋常客。只爲煙霞迂路來。

同松塘夫子及諸子遊鳴巖

出遊恰遇送梅天。翠壁青山綠更鮮。一自先生來枉駕。鳴巖佳境世人傳。連朝幽鬱雨紛紛。遊約踐來天歛雲。直到鳴巖佳境足。一瓢聊作五人醺。

林昌精舍奉送鱸夫子歸東京、時甲申古中秋也、是夜無月

新詩久已世流傳。文字寧知此結緣。明月應嫌照離席。浮雲故蔽一宵圓。今夜無端人別愁。招提勸酒古中秋。吾鄉若不富山水。安得先生旬月遊。

觀松亭席上再別鱸翁、次阿保小國韻、此夜古九月十三夜

也。

可堪再度話分離。情緒知君亂若絲。更勸今宵一杯酒。莫言歌管攪吟思。

同上次舟阪秋村韻

月上庭松第一枝。山樓此處捲簾帷。今宵恰值十三夜。揮筆喜君先有詩。

赴高山途上作時有所在修道之事、故及

修治入官道。役夫人影深。鳥翻風有語。雲返岫無心。開鑿田園畝。斧斤桑柘林。從今車馬軌。列比可駸々。

冬夜與諸子鬪詩得豪

強隨年少把吟毫。欲鬪詩壇思氣豪。酒國爲囚在吾輩。詩軍破敵付君曹。老梅橫地凍煙合。孤鶴冲天霜月高。險韻拈來才力薄。沈吟苦澁首徒搔。

與內木古竹晤

連宵醉榻興悠然。把酒何關雪滿天。對話慙吾詩學淺。輸君六法有師傳。

甲申除夕

今夜復除夕。祭詩斟酒杯。歲同燈影盡。老逐漏聲催。憐有彫蟲句。慙無吐鳳才。笑余餓傲骨。夙志未為灰。

乙酉新年

聖代恩波遍。閑居避世營。日升松色麗。風度竹聲清。溫飽徒迎歲。醉吟聊送生。兒童先試筆。慰藉老親情。

春寒不出

自入春來未試藜。連朝風雪掩幽栖。分明昨夜探梅夢。復到斷橋流水西。

早春偶成

吟懷日夕待春回。牆角猶殘舊雪堆。今曉兒童喜相報。盆梅初放一花來。山村春立雪猶堆。柳未點青梅未開。只有詩人不違約。先他黃鳥訪吾來。

春窻坐雨

連日餘寒阻出行。梅花消息最關情。今朝初覺四肢暖。坐聽一窻春雨聲。

平相國

跋扈飛揚絕世雄。繁華廿歲瞥然空。請看高屐躡高位。父是醉囊師古云平聲兒傘工。

春興

鞍峰鎗岳雪猶明。何處尋芳趁好晴。冰底溪魚難可釣。頭番春味屬芹羹。嫩柳含煙縷々新。雪纔消處步溪濱。筆頭柔挺將盈寸。春屬東郊拾翠人。

源廷尉

骨肉終身罹亂離。英雄薄命可傷悲。銅盤執熟兄方忌。雪路號寒母亦危。吾掣鯨鯢曾有策。人呼猪鹿豈無辭。重圍絕險能衝破。不破讒言挾巧奇。

咏偃松

螭屈龍伸任性靈。臨淵俯地保遐齡。凌雲豈是棟梁用。唯有盤根儲茯苓。

絕句

鷓鴣自占一枝安。飲啄從容忘凍寒。我亦吟詩幽意足。畢生不敢慕微官。
呼酒寒梅花下斟。不知世上有升沈。醉來得句仰天坐。老鶴梢頭聽一吟。

乙酉古中秋呈家君

節至中秋未怯寒。南樓陪侍倚欄干。回思多歲別離苦。偏覺今宵杯酒寬。
萬里飄蓬歸夢寐。一輪明月照團圓。長孫詩就先相獻。重對殘樽坐夜闌。

秋日雜吟

優遊筆硯送生涯。無復佳篇答物華。獨有陶家風趣似。不將醒眼對黃花。

丙戌首春家尊七十壽筵

得逢嘉會喜將狂。七十家尊健且康。身致勤勞享壽考。官旌孝養賜恩光。
不貪仍避利名累。知足自甘安樂方。談笑哈哈忘老境。子孫長是仰餘慶。

春曉

籠鶯啼破夢方醒。宿醉膏騰漱石瓶。身在少陵詩句裏。草堂耿耿帶春星。

梅雨五首

蕭寂復蕭寂。招提梅雨滋。香煙籠佛座。苔色入簾帷。微笑拈花處。參禪
面壁時。遠公當此際。應是許杯卮。僧房
久霖知幾日。暗淚濕征衫。客況吾空感。鄉思孰是交。倦眠惟聽雨。愁座
不揚帆。落花江湖老。飽嘗辛與鹹。舟窗
不見蕭郎到。連宵檐滴鳴。簾衣侵草色。琴柱濕絃聲。倦繡如生疾。顰眉
似帶醺。鴛衾無結夢。其奈此時情。妓樓
茅屋宜閑睡。柴門懶出遊。已知梅子熟。未看雨絲收。奇字呼童課。空樽
向婦謀。鳴蛙應得意。蔓草滿池頭。書齋
一篙新漲足。梅雨入溪渠。網罟無由曝。魚蝦不可漁。誰尋太公宅。難訪
子陵居。醉臥蘆洲外。水風漂夢初。漁家

丁亥元旦

雞鳴群動起。今年從此始。吾亦啓窻扉。把箒掃書几。獻杯侍老親。賦詩示小子。敝襖袍何耻。菽水歡足矣。一醉宜安眠。自擬方外士。風鳶時傳響。春聲忽滿耳。

寒夜獨座

孤坐蒲團冷。寒宵更漏遲。看書思遠友。呵筆寫新詩。燈暗花生盞。窓明雪壓籬。爐頭餘燼在。吹起煖殘糜。

餘寒

昨夜微暄欲雨天。峭寒今日又翻然。梅脣柳眼兩無色。跋扈東風惟紙鳶。

雪霽出遊

宿雪朝來歇。時哉可出門。挈提無俗客。携帶有清樽。魚版鳴邊寺。紙鳶颺處村。行吟聊任口。險韻不須論。

丁亥五月細江歌塚碑落成、碑面刻故國司姊小路基綱濟繼兩卿歌、句中故及。

吾州多峻岳。四面如譙櫓。交與隣邦疎。中古猶太古。其土瘠而磽。其人愚且魯。所以野無文。舊史闕不補。天朝置國司。奉任固吾圉。有姊小路氏。詳在世家譜。卜地細江湄。數世來胥宇。就中此二公。國風名高舉。何以遣客思。僻陬無伴侶。霜滿夜眠驚。菅禽時刷羽。位山咏轆軻。白雪繽紛舞。月前賦應制。蓮露珠瓊吐。爾來幾滄桑。忽諸經寒暑。晚出荏野翁。野乘尋端緒。搜求二公墳。不知在何許。多年拾遺稿。選擇得其叙。殷勤作碑文。以供百世覩。今茲同志人。勒石代冢土。從此幾春秋。應有薦豆俎。拜跪倚松風。恍然聞靈雨。

鱸松塘翁再遊吾鄉、聞頃日有撲江看瀑之舉、以定其名稱云。

一別三年隔楚秦。豈圖再此轉征輪。提携健筆縱橫手。跋涉豪遊矍鑠身。絕壁生雲開繡匣。飛泉激石迸鎔銀。山靈應待君來晚。七瀑佳稱從是新。

解毒園竝引

淨永精舍老上人、退院結廬於解毒泉之側、扁曰解毒園、蓋往年吾師石秋劉翁曾遊焉、以里人所稱之音、而爲解毒字、故詩中及之。

幽澗細江北。國司遺館邊。精舍在其側。村逕接田園。山下泉眼湧。四時碧涓々。云是靈味足。飲之疾能痊。吾師曾遊此。主僧爲招筵。汲來時一瀹。清茶活火煎。而問泉名號。里俗自古傳。未知爲何故。請師試思焉。吾師忽拆脾。音韻固有緣。宜書解毒字。亦自功驗全。七椀喫方了。脫腕詩句圓。清風生兩腋。白雪上雲箋。主僧今退老。考槃此來遷。題來扁額字。高揭草堂前。朝昏洗塵垢。春秋聽潺湲。知君龜鶴壽。道骨老愈堅。

微予以詞賦。末學顏赧然。吾師已逝矣。再遊更無年。把筆空感慨。難賦惠山泉。

題解毒泉

營得菟裘心地清。朝昏只聽石泉聲。惠山不啻煎茶味。靈品還傳解毒名。

戊子新年作

匆々四十五秋春。頽曆今朝歲又新。身以癡頑兼善病。天將筆硯與閑人。箕裘幸是有元子。矍鑠尤歡存老親。依例頽然須一醉。莫教孤負太平民。

一月初七會散夜歸醉倒傷腰臥床數日戲作

泥醉歸來堆雪中。滿街宛若鏡玲瓏。何圖顛蹶橫塗地。無術踟躕直駕空。或類屈腰求五斗。豈能折臂作三公。從今須臾誠杯酌。應畧頸銜不倒翁。

寒窻茶話

欲和淵明止酒詩。山窻雪霽煮茶時。客來莫道寒方甚。七椀酒能療凍飢。

侵雪問梅

吟遊試向野溪潄。竹外相逢積雪陰。宛似深閨兒女態。未看一點帶春心。

一位木歌

一位之山靈赫然。維神生木稱一位。聞說上古聖明朝。用之爲笏典章備。乃知逐歲貢獻來。物換星移失傳記。文龜國司再振興。雪玉集中載其事。元和二年復繼之。天顏有喜見詔意。下命椒房賜褒書。于今藏在千光寺。靈山靈木天下尊。宿學紛々未定議。云林云樸云水松。強取漢字呼品類。我邦自有我邦音。一位須書一位字。

立春後二日艸堂小集、此日會者皆青年諸子也。

頒曆恰逢春己回。草堂依例小筵開。窓橫皎々將圓月。盆貯踈々未綻梅。此會預期應繼火。諸君莫說不勝杯。詩成驚見青年志。惟我蹉跎白髮催。

紙 鳶

筠骨楮皮形影單。一時乘勢上雲端。東風吹罷忽無力。恰作幽閨秋扇看。

青砥藤綱滑川撈錢圖

孔方自異楚人弓。雖費私錢心則公。撈去何須論得失。千秋火炬映波紅。

戊子除夕書感

涓埃未有答賢明。事業誰言期晚成。燈燭熒々留臘影。轆轤軋々發晨聲。當年雖抱凌雲志。老馬何堪伏櫪情。屈指曾遊將一紀。春申浦上遇周正。己丑新年作、自客年五月着手於飛驒誌編纂、詩中故及。

屠蘇奉父勸杯觴。喜過古稀猶健剛。去歲田蝗不作害。今朝山靄自呈祥。著書敢謂等身業。修學將爲須靜方。吾土迎新如此少。未看積雪滿庭牆。

春日書懷

世路飽曾諳險危。憐吾未得處之宜。柔條纖縷無爭意。欲向春風學柳枝。

浩然堂主武內子學醫於東京而歸、賦贈。

遊學功成歸故鄉。跛行眇視是尋常。但言受業醫三世。誰得能窺垣一方。
月下鍊丹金液冷。花前搗藥石英香。養生欲令衆人解。便以浩然扁我堂。

夏日同蒲武內諸子、訪竹堂師。

同心拉友訪支公。獅座相迎約不空。許飲何妨白蓮社。題詩豈用碧紗籠。
樹陰露滴苔痕濕。池面風生涼氣通。一任清談消半日。醉歸門外月如弓。

秋日偶感二首贈湘雨師

幾歲離群久。索居情更深。倚松期特操。對竹悟虛心。午夢雲生榻。秋吟
月照琴。悠然供獨酌。杯酒代知音。
身已逃塵網。門無設雀羅。瓜蔓施樹杪。苔蘚映簾波。好古人真少。馳新
世或多。著書供老懶。其奈覆瓿何。

題畫

路人丹山碧水間。料知步步近仙寰。兩三麋鹿銜花去。六七童兒採藥還。

鍊舟山岡居士一葺年忌辰、諸子將建碑於高山、且以月下

聞蟲之題供其追奠、余幼時頗蒙居士恩眷故賦一篇以弔焉

于時明治二十二年十月也。

孝矣山岡君。忠矣山岡君。幼時從父任。遠躡飛山雲。無幾遭母喪。悲哀
感衆民。夜々詣墓拜。旦々拈香焚。聞蟲想母語。看月慕母顏。嗚咽廢寢
食。涕泣濕衣裙。明年父亦逝。慟哭返故園。家有阿兄繼。君獨自立身。
書法善艸隸。一揮掃千軍。武事好長劍。一世稱絕群。維新唱大義。忠勤
侍紫宸。餘閒修禪理。跌座鍊心神。明治歲戊子。維八月中旬。玉樓新修
築。帝命召斯人。今茲當一葺。偏欽君遺勳。月下聞蟲咏。可以代蘋蘩。
因憶昔日事。丁憂哭墓門。又懷竭誠意。諫諍訴天關。不耻古賢哲。忠孝
君其全。仰看忠孝字。赫々勒貞珉。

庚寅新年書感

索居幾歲歎離群。徒逐朝昏塵累紛。一事未成偏有耻。百年欲半奈無聞。
殘燈耿耿光將盡。暗鵲聲々曙已分。只喜阿爺猶壯健。屠蘇酬酢帶微醺。

賀田近基德四十以奇石祝爲題

年過不感著名聞。與世推移志業存。別有米家幽趣在。朝昏愛玩對雲根。

庚寅二月招飲福田朴堂、屋貝聽秋、日箇原耕雲、舟阪秋

村諸友於月波樓、秋村有詩次韻以酬。

多謝霏微小雨中。諸君踐約路從東。偏喜交遊除熱惱。只嫌衣帽冒寒風。
論談或雜白非白。醉面相看紅映紅。雖羞薄饌與村釀。但覺尊前情意融。

庚寅二月送兒義彥遊學於東京三首

送別平生情不禁。今朝況是淚沾襟。前途只合避風雨。知汝離巢離燕心。
忽爲孤客向天涯。男子何曾傷別離。問學由來在誠意。勿迷世路固多歧。
畫樓綺閣帝都春。車馬奔馳九陌塵。此際孜孜須學道。修身莫誤百年身。

溪村卽事

青雲非我意。寄迹釣魚缸。有水都榮舍。無山不入窓。耽詩一生老。把酒
百憂降。濯足披襟坐。悠然涼滿腔。
日伴樵漁侶。何須作解嘲。書唯勤涉獵。詩或欠推敲。霜滿敗荷蓋。風生
枯荻梢。終年樽有酒。一任食無肴。

明治庚寅九月賜

天皇皇后兩陛下眞影于古川高等小學校、其年十月有勅於
天下宣教育之事、謹記盛典。

仁恩毫毫及童孩。仰見乾元最大哉。藹々玉容天上降。淳々鳳詔日邊來。
近三千歲重明遍。滿八十州光訓開。朝野從今奉忠孝。俊英應是盡其材。

辛卯新年偶感、余自二十二年八月古川町長就任、二十三年十二月辭退、詩中故及。

鳳詔宣來及僻鄉。淳々教化聖恩長。和風連日催冬暖。微雪今朝兆歲穰。商賈已聞參廟議。農工亦見受褒章。蹇予幸得付閑地。筆硯優遊安樂方。

辛卯新年作

阿爺客歲入瑤臺。兒滯東京尚未回。賴有嬌孫爲獻酢。傷心懶把屠蘇杯。首春書懷寄中村士寵於東京、士寵時爲衆議院議員

聞說清朝議政初。憫農乃欲減田租。三傳孰辨烏焉馬。全局誰收蜀魏吳。夜雨將開梅點々。春風未遍柳疎々。朝野暖回應有日。黎民鼓腹足歡娛。閑人養疾慰幽思。偶把青編冷眼窺。斫肉東方誇自受。濫竽南郭畏分吹。寒殘臘雪尙難解。春淺凍雲還作癡。今日群賢參廟議。也知清世野無遺。世事真成萬緒紛。笑他皮相漫相論。蕙蘭產谷非無馥。桃李成蹊自不言。漣漪水暖流漸岸。變黷春生帶靄村。野人徒抱杞憂志。豈學張家吾舌存。辛卯二月聞三條內府公薨。

西洲東海仰高譽。驚聽如今挽素車。白日無光天慘澹。黎民有動地欷歔。忠誠社稷同師父。心契君臣感水魚。爵位生前其匹少。殷勤況復賜綸旨。

岡田吳陽翁碑成門生修追悼筵。賦贈。

松軒告老養門生。不顧世間冠帶榮。温厚接人無怠色。惻誠修道見真情。課餘風月詩機發。醉後龍蛇筆勢橫。今日吳山碑一片。千秋墮淚感名聲。

松子歌

嗚呼乎松子。汝種非凡桃俗李。生于斐陀深山中。服之得延壽不死。天長十年秋八月。嘗獻朝廷載國史。爾來經過千餘年。仙姿不變色蒼然。今日採來感更發。想像供饌薦御筵。嗚呼乎松子。斐陀國人誰能同汝國史傳。

篠魚

頭尾天然具。鱗鱗亦類魚。何須貫楊柳。自是托絲筵。造化雖生異。心神本屬虛。人言霖雨後。活潑躍流渠。

賀守田寶丹翁五十

一種仙方稱寶丹。長生不老更無論。知君家世治仁術。應是餘慶及子孫。

綿引東海詞宗見訪、有詩次韻、水戶人

官海奔波亦不安。田園稼穡固艱難。羨君高踏吟風月。領略江山自在看。隨意遨遊到處安。挂冠勇退古來難。營規陣制今無用。山水總爲詩料看。

夏日雨中、同東海詞宗飲於蕪水亭、時話故國司尹綱故事。

相迎共話舊乾坤。對酌披襟倚水軒。追思南朝當日恨。前山飛雨暮雲昏。

安房山懷古

往昔號清峰。佛區頗壯濶。如今遺迹存。二十五菩薩。

九月十三日送別東海詞宗

逢時知有別。豫思今日愁。溪樹共避暑。野寺同賦秋。鳳毛文章美。鴻爪詩句優。莫作離群感。雲南水北流。

辛卯孟冬、松塘老人自越中到、宿於我家。

散步歸家日已頽。怪看庭戶晚猶開。僮奴忙告迎賓駕。寒暖纔終勸舊醅。矍鑠高齡將七十。遨遊屈指及三回。騷壇久矣執牛耳。尙趁江湖風月來。

辛卯歲暮

時有衆議院解散之報、故及。

吟醉悠悠又一年。椒杯獨酌坐青氈。蕭條歲景云殫夜。黯澹寒雲欲雪天。吾土豐穰雖可喜。隣州震害最堪憐。閑人亦有杞憂在。廟議如今聞變遷。

壬辰新年作

世態推遷日夕新。老慵依舊守清貧。嗟吾齡漸將知命。克己心猶未近仁。酒榼茶鐺對花月。竹籬茅屋避風塵。清狂故態寧能改。微醉閑吟且逐春。

壬辰首春偶成、時有衆議院議員選舉之事。

春風料峭掩柴荆。閑讀江湖月且評。破蕾那邊報梅信。遷喬早晚聽鶯聲。遼東豕敢衆人目。冀北駿知千里名。老懶擁爐宜獨酌。不關世上事紛爭。

短長讖揣世間聞。黨議豈唯南北爭。百事人皆鬪全局。一揮誰復掃千軍。
山河未有峭寒退。都市更無和氣薰。駘蕩春風期已近。梅鬚柳眼見繽紛。
三月松塘先生七十初度、門人開筵於東京不忍享壽之、賦
贈。

湖上天晴詩景饒。群賢獻壽此招邀。奇思抽得皆神韻。嘉藻攜來盡玉彫。
函港諸篇鳴北海。芳山一絕冠南朝。七十健比隨園叟。更擬遊蹤万里超。
祝壽筵開佳氣濃。群英此日喜陪從。風姿海鶴誰能擬。詩句天衣君獨縫。
万里豪遊遍鴻爪。七旬強健笑龍鍾。放翁齡又香山達。併得詞壇百代宗。
柳陰洗馬圖、次加納吟石韻。

奏功塞下是前身。流汗柳陰駿尾新。千里飛黃無所用。一犁耕雨屬農人。
不逢伯樂厄還空。寄跡尋常驚馬中。流汗洗來應展足。長嘶振鬣柳陰風。
讀瀨木桐村平湯看瀑詩

誦來觀瀑七言詩。健筆生風冷透肌。神往使人忘暑熱。想哉噴雪躍球時。
壬辰舊仲秋、鱸翁時在高山客寓、賦此以寄。

比年無此好中秋。況復嘉賞遊杖留。遙想高山風月伴。清輝耀處倚何樓。
暮靄全收月色奇。可堪獨酌慰幽思。憐吾久痼未全快。逢好中秋無好詩。

獨坐賞月

此宵清且朗。不見片雲侵。人自有哀樂。月唯無古今。推敲詩半熟。芋栗
酒孤斟。已覺夜過午。啾々蟲語深。

壬辰歲晚書懷

終生難免不材譏。老懶閑居與俗違。聊悟無何有鄉趣。漸知四十九年非。
殘宵黯澹燈懸壁。徂歲蕭條雪滿扉。感慨沈吟眠未得。曉寒襲入五更衣。

癸巳新年作

頌來玉曆又迎新。柏酒椒盤解宿醺。五十加齡未知命。蠢愚處世奈無聞。

門閭雪滿兆豐稔。松竹煙浮和瑞雲。依例閑人自多事。題詩試筆到斜曛。

夏夕園中所見

竹樹綠新宿雨晴。捲簾把酒夕陽明。時見蜘蛛來結網。辛苦巧緻畢經營。門籬知渠居要地。無端蒼蠅觸被縈。蠅也奮翼欲飛逃。羅密粘多魂神驚。蜘蛛乎得意躍身走。手忙脚亂勢縱橫。又見一蜘蛛從旁出。妬心欲奪彼奇贏。兩々蜘蛛乃棄繩。同類雌雄却鬪爭。須臾左右共相責。蠅也終爲蜘蛛刑。吾看到此頻感慨。世間往々多此輩。貪利逞欲顏覲然。一些一銖無憐愛。閨牆亂序亦何論。紛爭兄弟及姊妹。况復雞狗馬盟人。朝肯夕替意不介。停杯擁膝暮景侵。螢火三五閃庭陰。

銷夏絕句

竹陰梧影兩相宜。一炷焚香睡起時。銷夏先生有何策。洗毫磨墨試臨池。

送池田綠所歸國癸巳九月

離別老來情不禁。况逢黃葉九秋深。思君七里中山去。詩句鮮於錦繡林。

癸巳十一月國府村人獲白鷗、往昔斐陀獻白狐白雉事見于

國史、蓋祥瑞也云。

澤是可漁山可樵。明治恩惠及芻蕘。遙思貢獻當年瑞。今歲重逢獲白鷗。

雪日漫吟

戶々濁醪熟。年豐堪禦冬。山村如隔世。雪屋不聞鐘。親朋憐衰疾。家人笑老懶。只期梅信到。行樂拖吟筇。

畏寒垂紙帳。撥火暖茶鑪。友遠書中晤。詩來夢裡成。竹僵三逕絕。雪積一軒明。况復逢年暮。老懷感慨并。

癸巳歲晚

蒲質蕪才負聖明。優遊閑散送餘生。地爐火燼煙無迹。檐樹栖寒鳥有聲。老境一燈長夜課。早銀孤枕十年情。頃來醉後習踈懶。詩句未成眠已成。

甲午新年作、今年和歌勅題梅花先春。

喔々雞鳴聞四隣。屠蘇酬酢坐清晨。眼前景物舊年盡。天下人心今日新。
題咏誰哉吟入選。梅花何處發先春。驚才難得詞華巧。醉飽徒爲老逸民。
豐稔兆來飛雪鮮。山川草木帶祥煙。天將曉處如神世。曆入新時似少年。
交誼遙聞五洲穩。起居殊喜一家全。迂生老懶多疎濶。愧謝親朋信屢傳。

詠史

不容髡賊亂坤乾。正氣堂々宛儼然。皇統無窮天日麗。清名何穢億斯年。

和氣公

妖雲漠々滿乾坤。夙識勤王身不存。父母訓辭銘徹骨。君恩何暇寵宮媛。

小楠公

蹴雪尋兒不堪怒。一刀刺殺血如縷。勢威千古震雞林。日域驍將猛於虎。

膳臣刺虎圖

宮牆他歲戰塵飛。歸佛知君免禍機。拄杖支來吟白雪。天邊岳色照緇衣。

西行法師

春盡

今年又把餞春杯。老境蹉跎白髮催。知是隣園花已落。飛紅幾片過牆來。

山村所見

耕耨相扶淳朴加。梯田屈曲路橫斜。笕泉一道連筒去。漑及溪間八九家。

聞旅順口陷落

旅順金州非外藩。旭旗到處向風翻。誰知優渥賜醫藥。捕虜傷兵泣帝恩。
料知不日陷天津。滿漢髡奴爲我民。佛米露英驚嘆甚。神州驍勇恰如神。

雜吟

多年邵平何種瓜。村居養疾懶尤加。清世癡頑憐木石。閑身倡和寄煙霞。
借蓑時過釣魚舍。乞茗或敲禪衲家。紙田硯海有吾課。休道優遊輕世華。

秋宵夜坐、同秋村分韵

忘憂有酒帶微醺。警報傳來時事聞。金氣橫空排雁陣。商聲動地破蚊羣。驍名彼恐鬼將勢。功績誰爲麟閣勳。孤榻沈吟猶未寐。中宵移坐見天文。

乙未新年作

烏兔匆匆歲又新。叩冰盃嗽坐清晨。王師連捷北燕境。大纛尙留西海濱。溫飽固非今日事。沍寒最憶遠征人。冲融早晚東風遍。天地應回艸木春。

賀此君堂長兄新婚

此君堂上笑聲溫。露葉烟梢映綠樽。今夜熊羆應吉夢。早知他日子孫繁。銀燭光鮮滿畫堂。此宵齊舉萬年觴。清風搖動窓前竹。認得一雙棲鳳凰。

道幸春雨子所惠山水畫扇有題詩次韵以酬

名利擲來身不辱。游踪到處風懷足。詩中畫又畫中詩。君筆併收山水綠。

寒夜訪西本梧堂招吟石、分韵

同心情話坐團欒。況復早梅瓶裏看。茶靄香烟春意動。泚々一室不知寒。

乙未新年十六夕岡村耕雨見招淡水社諸友於蕪水亭予不果

君子之交淡如水。新年此夕會同心。慇懃折簡感情厚。踈懶杜門嘆老侵。料識紅裙須助興。尤思白雪孰成吟。防寒槽榼爐頭坐。一字推敲獨自斟。

乙未一月訪耕雨詞兄、觀赤穗義人遺物花器及酒瓢、花器、

係大高忠雄遺物、有銘云雲脚、乃淺野侯所題、元祿五年

忠雄自鏹之、而其質瓢也、

酒瓢、係原元辰遺物、有銘云相生、蓋其形首一而體爲勝

者也、室翁義人錄載、大高氏、學茶、以伺讎邸、原氏臨

終、咏和歌云、句中故及

非有好義心。寧慕義人事。非有好古心。爭獲古代器。瓢兮又瓢兮。相伴亦珍異。義人遺愛物。古色含潤膩。雲脚可插花。故侯有題字。相生可藏

酒。韵友堪同醉。二物形不同。同種而朋比。二人義乃同。况復同雅致。
一於復讎前。嗜茶爲潛伺。一於臨終時。咏歌發藻思。二百有春秋。天公
錫其類。果然君得之。堪酬平生志。好義兼好古。而今俱完備。斟酒且看
花。賞玩無軒輊。

尋山僧不遇

偷閑來欲問禪機。夏木陰深古佛扉。飛錫老僧何處去。青山只見白雲歸。

偶成

連戰乃連捷。外洋人亦驚。慙慙使臣到。欽仰媿和成。令彼清朝輩。感吾
帝國情。凱旋應有日。牛酒犒天兵。

餘寒

雨意還成雪。餘寒尙峭然。老身無取醉。長夜不堪眠。花勒盆梅瘦。筆尖
硯水堅。遠朋郵信至。喜見載詩篇。

訪安國寺贈無隱師

來尋十刹古祇園。老樹重々綠蔭昏。只有經龕免兵火。當年遺卷若干存。

移竹

新梢嫩葉綠交加。恰是清風曼玉過。庭上移栽餘地在。留看成蔭子孫多。

姊小路鄉靈祭

掃苔奠拜國司碑。追憶當年淚自垂。是日醅杯依舊例。諸兄題橘獻新詞。
位山咏夙聞宮闕。官爵榮遙下遠陲。遺迹猶看數株柳。蕭々映帶細江湄。

乙未五月初六、聞船津有災、賦此、唁大野荒原森鈴木福

川諸兄

慌忙呼出出。奔焰已滿街。事在人定後。防虞或驚猜。暴矣祝融勢。熖々
捲地來。況有狂風起。千家一夜灰。拾收存瓦礫。棄擲遺珍瑰。負戴勞翁
嫗。僵踣憐童孩。明日聞凶變。故人家亦災。料知假居事。未暇洗面埃。

炊飯何嫌食。解渴應思梅。蠶桑暇鳥有。難奈夏稅催。何日卜築了。煖房把酒杯。

竹屋縱屋浩然至

閑窓午眠醒。吟侶兩三來。庭雨龍孫長。池波燕子開。探題除險韻。呼酒不停杯。燈火卜良夜。何妨暮色催。

水亭看螢

水亭坐倚柳陰灣。螢火如星去復還。夜半熒々依草宿。知渠天上杳難攀。晚醉來憑水閣欄。老來也懶把書看。不求揮扇收囊去。一任飛螢聚作團。雨後水亭來倚欄。飛螢逃撲未曾安。夜深童伴都歸去。柳杪蘆梢點々看。

靜妓

舞袖蹁躑奏曲新。歌詞懇切寫情真。妾心偏慕芳山雪。豈願鶴岡祠畔春。

夏日訪穠芳園

出門畏炎暑。幸遇午陰天。風動秧梢露。蟬吟槐樹烟。移筇何厭緩。思句未成圓。知是君家近。遠香認碧蓮。宅邊蓮花正開

同席上秋村在分韵風雨大至遂共宿焉

養疾平生不出門。拖筇偶爾訪吟壇。上樓纔叙寒暄了。設榻忽銜杯酒寬。團坐三人吳魏蜀。清談一夕老莊韓。剪燈痛飲忘深夜。浙瀝何妨雨打欄。

翌日雨未歇分韻各賦江村晚望

白雨脩然歇。江村暮景清。塔尖殘靄澹。帘角夕陽明。蘆倒鳧無跡。萍開魚有聲。時逢漁伴過。孤店喚杯傾。

同題畫次松塘翁韻

歸雲收雨帶殘暉。十里江灣楊柳圍。欸乃一聲人不見。輕帆容易孕風飛。

偶成似桐村

恐惶無復外邦侵。蒙古朦朧覆海潯。人似櫻花香馥郁。國如富岳聳嚴森。

誠忠殊慕蒼公志。節義將期楠氏心。皇統連綿爲一系。三千餘歲感恩深。

乙未歲晚

世路辛酸飽已嘗。任他蓬累作踈狂。蒲團坐久寒將苦。藥鼎鳴殘夜更長。百壽吾身半生過。一年親戚五人亡。瞭然只喜讀書眼。細字閱來毫不妨。

丙申新年作

天與癡頑付我生。不妨老境世緣輕。閑中詩就任迂拙。醉後客來辭送迎。雪霽溪山烟靄々。日升庭樹鳥嚶々。遙聞去歲臺灣定。新政廳開仰聖明。

次竹堂師乙未歲晚韵二首

百年幻境感人深。嗟我蓬頭白髮侵。未得悟生兼悟死。奈何非古又非今。十方聞說有諸佛。三界觀來唯一心。妙偈誦來春意動。梅梢彷彿曉鶯吟。得聞多劫罪根深。況復此身煩惱侵。于食于衣朝又暮。孰非孰是昨還今。風燈吾感死生理。詩偈君裁濟度心。五十加齡爲底事。殘宵餞歲只呻吟。

五月二十五日追奠碧桃伯父(大心獨雄居士)十三年忌於壽

樂精舍、賦二律呈牌前。

浮雲流水感。瞥過十三霜。月下談玄悟。花前得句狂。課書教子弟。施藥救膏肓。往事都如夢。傷心一縷香。一縷澹香煙。招魂坐法筵。夏山涼若滴。禪刹日如年。書見龍蛇走。詩存錦繡鮮。箕裘誰是繼。涕淚濕遺篇。

丙申七月病中作

病衰呻吟只感嗟。老衰稍比去年加。不知何日芬芳發。一朵深崖陰處花。醫云匝月疾應痊。不惜光陰容易遷。枕上把書還脫手。幾回短夢晝如年。

北窓閒咏

浴罷北窓涼自浮。碧梧翠竹爽於秋。吟餘擁膝風生簾。醉後曲肱雲住樓。林鳥歡聲無有境。盆魚樂意逍遙遊。閑居領得仙居趣。不願三神又十洲。

同次秋村韵

北窓銷夏足。起臥意融々。客到無聊際。詩成假寐中。豈求陶猗富。偏慕老莊風。一架蒲萄熟。已知秋氣通。

與秋村話舊及亡友繖城靜山朴堂諸子之事有感賦此

頻年竹馬故人稀。相遇俱談世事非。公道不饒頭白髮。青山何日是同歸。

中山君遺稿



桐山 義齋

春夜枕上作 以下九首淡水吟社第一輯所載

負笈曾爲霸旅身。醉吟斜月落花春。醒來枕上今宵夢。當日同遊懷友頻。

探梅

未遇春來駘蕩風。餘寒試步到橋東。腰間瓢酒獨空酌。借問梅花何日紅。

乙未新年作

神州神武五州驚。仰見輝々旭日明。史藉也無今歲事。外征將士未休兵。

爐邊夜話二首

聞說征人不倦勤。遁逃胡虜怕吾軍。最思斥候堪寒事。爐畔談來過夜分。
客到山窓雪後寒。把杯爐畔坐團欒。喜談敵將丁提督。戰艦呈來渤海寬。

常盤雪行圖

雪壓風寒涕淚頻。妾心決死豈謀身。穉兒他日震天下。誰料此宵求乳人。

和氣清麀公

皇統安危係一身。只憑廟勅赫如神。老髡何敢竊天位。決死勤王是此人。

小楠公

櫻井訓辭深徹身。至忠烈義似張巡。一門奮共南朝盡。七世只期斃賊臣。

西行法師望岳圖

吟嘯江湖風月遊。打包何用蓄銀猫。芳名恰似芙蓉雪。留得千秋永不消。

摘芹

料峭風寒春未回。出遊郊外儘徘徊。新芹摘得好肴核。田舍風流佳興催。

春淺鶯未鳴

難耐峭寒徹曉明。梅花太瘦乏餘情。後山殘雪春猶淺。庭上低徊未聽鶯。

春朝偶書

夢裡詩成曉色清。幽窗欹耳聽初鶯。愧我書常似鴉字。獨坐閑々學柳生。

三月十四日祖父忌辰恭賦

憶起當年舐犢心。青燈影暗斷腸深。壁間肖像凜如在。忍聽春風響古林。

春遊

杖履弄春閑出家。嬌鶯睨晚夕陽斜。姚黃芍藥香風遍。艷々花如十里霞。

觀櫻花

二十四番花外新。枝々美艷淨無塵。詩朋共會芳春宴。恰是身爲畫裏人。

江村春日

負郭江村草色青。溶々柳岸春靄冥。沙禽出沒隨波去。漁唱聲々遠水亭。

春晴出遊

雨後連山綠樹繁。春鳩聳翮喚離喧。長郊十里好風路。詩在梅花竹外村。

春日湖上

水碧沙明伴我遊。扁舟來去櫓聲柔。陶々一酌魚蝦美。涵月金波遠景幽。

觀櫻

獨占佳名作樂花。艷雲暖雪鬪穠華。和風吹到天香散。十里長堤夕日斜。

春 寺

緩步尋春訪法宮。幽香繚亂百花叢。對僧閑話忘塵俗。盡日歡娛坐惠風。

山館春夕

醉臥春山夢亦黯。月梅無影宿雲緘。溪聲彷彿如天樂。一夜仙風吹老杉。

暮春訪隱者

紫褪紅消惜暮春。郊垞到處綠陰新。先生避世深山裡。採藥尋芝伴異人。

乙巳四月四日舟阪秋村翁見訪

柳靄梅煙天氣和。初鶯隔水一聲過。先生歲々遊此地。今日又逢吟興多。

同村田白峰訪岡村香雨君家觀花

儘見斜陽照畫堂。春風吹遍滿園香。搖紅映水鯉魚躍。萬朵櫻花爛熳粧。

同舟阪秋村中村對岳兩君分韻賦溪山春興

雨後爭開幾樹櫻。綿蠻相喚早鶯鳴。詩人獨領溪山勝。遁俗悠々樂太平。

初夏偶成

花落水流春杳然。老鶯聽盡又新鶻。呼童買酒迎詩友。一醉槐陰伸脚眠。

新 鷗

春逝萬紅千紫空。雲垂陰鬱雨濛々。杜鷗一叫報初夏。聲在後山新樹中。

夏日贈山僧

古木蒼々蘿葛懸。清風一鼎起茶煙。苦吟幾日忘塵慮。丈室人癯似浪仙。

水軒夏日

兩客相携登水樓。無心又與白鷗遊。濃嵐淡靄山如畫。柳外一聲漁唱幽。

乙巳八月四日秋村翁見訪分韻同賦夏山逢雨

醫鬱雲蒸幽澗南。雷聲俄爾滿天曇。涼風吹送蛟龍雨。頃刻千峰洗夕嵐。

岡村梨坪君見訪分韻賦倦雨

默坐芸窗獨酌醪。連旬霖雨不堪勞。叩門偶有詩朋到。一笑相迎氣自豪。

祝某氏婚儀

德化隆々傳子孫。君家壽福萬年存。良緣長結合歡夢。積瑞如花香滿園。

弔戰死者某氏

命比鴻毛名節存。壯哉以死報君恩。故山今日埋香骨。萬古非消一片魂。

哭香雨先生

易簣一門悲豈禁。暗風陰雨夜愁深。遺篇應落世間響。字々如玉又似金。

夢父母

一夜寒闌孤枕欹。忽逢父母喜還悲。茫茫夢裡溫容接。不語不言吾獨知。

春雪

日淡滿天鋪白銀。峭寒逼箔至三旬。霏々積玉風吹面。片々成珠雪滿身。
橋外梅花猶未笑。溪頭柳眼更無春。山河四望皆如畫。故遣乾坤不見人。

春日出遊

忽見長郊柳絮萌。輕裝拱酒伴詩盟。花籠暖氣薔薇發。鳥帶彩霞簧舌鳴。
水面風收波自靜。橋頭月出雨初晴。山村十里春光好。緩步閑吟忘俗情。

春日閑居

偶出庭園自煮茶。更無詩友問我家。白雲生碗松陰靜。翠袖隨風竹影斜。
野蝶尋花桃有艷。山禽啼樹李爭華。愁看荏苒春方盡。獨坐杳然望暮鴉。

觀櫻花

千樹櫻花景特妍。嬌姿妖態美人天。留魂冷艷微含露。奪玉晴鮮遠拂煙。
檻外風吹塵不到。日陰霞暖影相連。春光勝事多佳興。却向人間洗俗緣。

中春登樓

獨上樓臺廢坐眠。熙々滿目艷陽天。舒遲日暖鳴幽鳥。駘蕩春央抹翠煙。
露濕櫻花紅勝錦。風吹柳絮白於綿。功名不賂村夫子。獨肆吟詩避世緣。

春曉

綠酒依欄盡日斟。村々雪解豁幽襟。新晴帶暖催桑眼。宿雨消寒長草心。
出谷山鶯窺戶牖。營巢野雉轉園林。怡然興長好時節。惹起詩情幽味深。

暮春卽事

兀坐空房覺夢頻。雄吟對酒句還新。幽栖野趣花時過。僻地山光草色勻。
細雨紅消迷望眼。斜風綠遍豫閑身。無端昨夜東皇去。杜宇聲中送九旬。

春宵

月出江城故壯觀。無雲望極露華團。三更夜色情猶在。萬里春光興又闌。
小院吟眸詩律細。曠畦醉步酒盃寬。穠花滿地清香裏。忽聽新鶻叫遠巒。

初夏訪桐山圭所君於新張里

夏樹葱々新綠圍。高軒對坐絕塵機。老蜂趁藥惜春色。殘蝶慕香迷落暉。
竹影涵池魚又樂。山光入簾客忘歸。天邊何物驚人耳。杜宇數聲掠牖飛。

初夏偶成與芝仙齋君同賦

時候清和意稍長。閑看處々挿新秧。遊蜂釀蜜春方晚。戲蝶曝衣風始涼。
水漑荒田收宿雨。山圍小閣帶斜陽。一樽買酒招詩友。避俗悠悠百事忘。

梅雨

夏景有情楊柳風。彩虹明滅抹天空。雲深嶺樹微還顯。水溢溪橋斷又通。
得酒快吟簾影裡。無賓午睡雨聲中。陰晴不定芸窻暗。日々脩然費筆工。

秋懷

小院蕭然趣似陶。寒蛩切々噪庭臯。詩無定律供慵臥。醉入眞鄉忘倦勞。
月影滿地秋意淡。風聲在樹夜情高。前山遙度疎鐘響。四望凝霜冷透袍。

秋日偶成

望裡風光關我情。柴門有客笑相迎。黃花助興露香冷。紅葉添愁秋氣清。野雀窺窻醒穩睡。莎雞出草報新晴。收禾農父伴兒去。一抹暮煙籠竹輕。

秋日村居

屋後群山景色荒。村々刈稻晚風香。芭蕉葉破不陰砌。蟋蟀聲寒將上堂。氣爽槐楓含墜露。颺清松栢帶斜陽。閑窻有酒幽情足。坐聽疎鐘度水鄉。

遊袞崙山千光寺

寂寞紺園寶鐸鳴。禽聲入耳不知名。清風松下蒼苔滑。落日溪邊白水明。醒裡談詩神意爽。禪餘聞法佛心深。維僧煮茗侑幽客。山味淡然殊有情。

冬晴出遊

雪後風寒未有春。乘晴緩步地無塵。山根枯草瓊花綴。水際空林玉樹均。冷艷輕粧梅淡白。鮮明相映鷺清新。閑吟沽醉忘歸處。東嶺一痕懸月輪。

己歲晚大雪

雪滿乾坤歲復窮。幽居自是百憂空。萬樹玲瓏銀世界。千門皎潔水晶宮。片々飛花凝望裡。紛紛積玉醉吟中。前村路當人蹤絕。終日打窻吹北風。

丙午歲晚

眼看光陰如轉輪。寒儒小室足容身。圍爐熾炭簾幃煖。擁褐挑燈筆硯親。閱史潛心屏俗客。迎年用意付家人。寬胸溫飽耽詩酒。遮莫明朝又履新。

觀山水畫

壁上新幃照眼新。淋漓墨色轉堪驚。雲橫春嶺一般淡。雨過夜村千畝清。雅客吟詩花外去。仙童採藥樹間行。陶然對酒還無俗。比賞天機摩詰情。

寄岐阜津田天游先生、壽其愛犬福兒、

馴養多年有愛情。白毛垂地似銀清。暑寒常在詩家守。花月時隨雅客行。搖尾傳書千里達。磨牙逐兔一身輕。福兒承福兼長壽。不老仙名豈負名。